

# わが子のあゆみ

岐阜県PTAが行う子育て情報機関誌

2018.1 No.451

初春号

第69巻4号

1



## 文化財清掃

校区には、多くの文化財があり、南宮大社と真禪院の2カ所で清掃活動を行っています。「ふるさとを愛する心の育成」として毎年5月と11月の年2回実施するこの行事は、本校の伝統となっています。全校児童による縦割り活動として、高学年がリーダーとなり、低学年の児童に教えながら清掃活動を進めます。初詣や祭りなどで身近な存在でもあるこれらの文化財を美しくすることで、地域の文化と伝統を大切にす大人となることを願っています。

たる いちょうりつみやしろしょうがっこう  
垂井町立宮代小学校

●【学校の教育目標】

見つけ 考え つくりだす子

## がんばる子らの汗と笑顔と眼差しと

垂井町立宮代小学校



### 読み聞かせ

月2回、母親委員会主催で「読み聞かせ」を行っています。子どもたちは、毎回楽しみにしています。



### 鮎つかみ大会

宮代地区まちづくり協議会との共催で、夏休みに行っています。夏の思い出に楽しい一時を過ごします。



### 宮代雨乞い太鼓踊り

伝統委員会が、地域の太鼓保存会の皆さんの指導で活動を行っています。



### 交通安全教室

PTA保健安全委員会の主催で、毎年4年生の児童が参加しています。



### PTA親子講演会

「生きる」をテーマに、絵本作家の後藤政幸さんの講演会を実施しました。



### 土曜日授業

宮代地区まちづくり協議会との共催で、腹話術、グラウンドゴルフ、料理教室、音楽教室、和楽器演奏会等の活動を行っています。

## わが子のあゆみ

2018.1 No.451 初春号  
第69巻4号

発行：岐阜県PTA連合会  
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内  
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部  
頒価：200円 年間1,000円  
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。



# 岐阜市立 藍川小学校

【ぎふしりつあいかわしょうがっこう】

- 住所 〒501-3107 岐阜市加野3丁目3番5号
- TEL (058)243-5266
- FAX (058)243-5263
- メール gisy44@aikawa-e.gifu-gif.ed.jp
- 児童数 259名

### 学校の教育目標

- 立志**…志を高くもちます
- 自主**…自ら考え自ら行動します
- 連帯**…仲間を思いやり 仲間に貢献します



学校のたからもの



### 沿革・地域の自然や風土

藍川小学校区には清流長良川が流れており、岐阜市最高峰の百々ヶ峰の東に位置しています。山や川といった自然に恵まれるとともに、小野小町ゆかりの延算寺など、多くの伝承をもつ寺院・神社があり、歴史を感じさせる地域でもあります。

本校は昭和四十八年に創設されました。本校の校区の地図を見ても、「藍川」という地名はどこにも見当たりません。昔からこのあたりを流れていた長良川のことを「藍川」と呼んでいたことや、また、この学校で育つ子どもたちが藍川(長良川)のように清らかで美しく、若鮎のように元気に育ってほしいという願いが込められ、「藍川小

### 校歌

#### 藍川小学校校歌

作詞・作曲 鷺見臣一郎

- ゆたかな流れ 岸べをあらう 小鮎のように 元気に育つ わたしたちは げんき合せて たくましく 強いからだを きたえよう ああ 藍川 藍川小学校
- みどりの山を めぐらして 風もきよらな この郷土に 小鳥のように 愛らしく 素直に育つ わたしたち みんな仲よく 手をうなぎ 美しいころ 養おう ああ 藍川 藍川小学校
- 古墳の数や古寺 遠く拓けた この郷土に 歴史をうけて 新しい 文化を創る わたしたち 希望は高く 大らかに 明るい未来へ はばたこう ああ 藍川 藍川小学校



▲園芸委員会のお世話している花壇

の場となっています。登山道の中には急坂道もありますが、中学生が手を貸したり励ましたりしてくれることが、小学生にとつての喜びや、中学生に対する信頼感につながっています。他にも、合同鑑賞会や合唱交流会、合同防災訓練、合同地域清掃、地域ウォークラリーなど、年間を通して小中合同の行事がたくさんあります。

### ③地域の方とともに

本年度末で藍川小学校の給食室が閉鎖され、藍川北中学校に完成する共同調理場から給食が運ばれるようになります。藍川小学校で作られる最後の給食を地域の皆さんにも食べていただきたいという思いから、学校レストラン「あいかわDEらんち」を年間十二回開催しています。毎回三十人程の方に来ていただき、楽しく、おいしい時間を過ごしていただいております。「今はこんな給食があるやねえ」「こやちっていろいろお話できる場があつてうれしいよ。」と地域の皆さんにも好評です。地域の学校として、地域の皆さんのコミュニティの場となり喜んでいただけること、学校の様子を知っていただくことができている。

十一月には、お世話になっている地域の皆さんをお招きして「感謝の会」を開催しています。各学年が歌や器楽の演奏、呼びかけや寸劇をして感謝の気持ちを伝えます。同時にフリー参観も行い、子どもたちの学び姿も見てもらいます。藍川青少年育成市民会議の会長さん

学校」と名付けられました。創立四十五年目を迎えた現在は、全校児童二五九名、教職員数二十二名、十二学級の学校です。

### 学校のたからもの① コミュニティ・スクールとして

#### ①小中一貫教育

一小一中の校区であることによるよさを生かして、藍川北中学校と綿密に連携をとりながら教育活動を行っています。藍川地区小中学校の目標を「立志・自主・連帯」とし、九年間の育ちを見据えた指導を大切に、基本的な聞き方や話し方といった、学びにかかわる部分もめぬらかな小中接続を目指しています。そのために、小中の教員が集まり、授業参観をした上で今後の方向について話し合う、「小中交流会」も開いています。これは三つの部会に分かれており、それぞれ授業づく



▲算数学習会：中学生ボランティアが先生となって、算数を教えています。



▲小林紀子バレエ・シアター：みんなで「パッセ!」バレエの動きを体験しました。



▲あいかわDEらんち：地域の皆様のコミュニティの場として活用しています。

り学び方家庭学習をテーマとしています。共通して意識したいことや、段階的にどんな力を付けていきたいかということなどを話し合いながら、小中一貫教育を進めています。

#### ②小学生と中学生のかかわり

夏休みには算数の学習会を開き、多くの中学生ボランティアが来校して、小学生に算数の学習を教えてくれています。全校登校日に各学級に入ってもらったり、希望者に教えてもらったりする中で、「自分も中学生になったら人に教えられるようになりたい」という意識も生まれてきています。

秋には岐阜市最高峰の百々ヶ峰に登ります。学校から二〇メートルほどの位置に登山道入り口があり、地域の中にも日課として登っている方がいます。小学三年生と中学一年生がお互いに楽しく話をしながらの登山は、小中のよい交流

の「藍川大家族を合言葉に、学校・家庭・地域の連携を推進しています。

### 学校のたからもの② 夢をもち、夢に向かって 力強く歩むために

#### ①感動体験

文化庁「文化芸術による子供の育成事業」に積極的に応募し、昨年度は大阪フィルハーモニー交響楽団、本年度は小林紀子バレエ・シアターの本物の文化芸術に触れる機会がありました。子どもたちも演奏や踊りに参加をさせていただけ、「バイオリンを弾けるようになって将来大阪フィルに入りたい。」「あんなふうに踊れるようになりたいな。」と、まさに子どもたちの未来をつくる出会いとなっています。このような事業にも、中学校や保護者・地域の皆さんにも一緒に参加していただいています。

#### ②岐阜市立中央図書館(メディアコート)の連携

中央図書館の司書の方に、全学年において読み聞かせやブックトークを行ってもらう予定です。さらに本年度は館長さんがわんこカートとともに来校され、子どもたちが読み聞かせに歓声を上げて本の世界に入り込みました。また、図書室のメディアコーナーにはブックトークで紹介された本や団体貸出本を設置しています。子どもたちが読書への興味関心を持ち、自分の世界を広げていけるよう、様々な良書を提供しています。



▲小中交流会 スムーズな小中接続を目指し、3つのテーマから話し合っています。



▲小中合同地域清掃 夏休みには、地域が一体となって校区を美しくしています。



▲小中合同百々ヶ峰登山 声をかけあって、絶景の頂上を目指します。





▲田植え

校歌

春里小学校校歌

作詞 秋山千枝  
作曲 上野忠平

一、緑の山は野を囲み  
輝く流れ可児の水  
自然の中の学舎に  
豊かな心育てよう

二、昔を語る城山を  
南に仰ぐ校庭に  
元気な声を響かせて  
くじけぬ体鍛えよう

三、青空高くゆく雲に  
未来を描く夢のせて  
大きく強く羽ばたこう  
伸びゆく春里小学校

可児市立  
春里小学校



【かにしりつはるさとしょうがっこう】

- 住所 509-0251 可児市塩642番地1
- TEL (0574)65-2063
- FAX (0574)65-7766
- メール harusato@school.city.kani.gifu.jp
- 児童数 436名

学校の教育目標

豊かな心を持ち、  
たくましく生きる  
春里の子の育成



学校のたからもの



学校の沿革および地域の自然や風土

明治六年に矢戸学校 伝明学校 清新義校が、明治七年に教童義校 敬業学校が、それぞれ設立されました。統合を経て、昭和二十二年に春里小学校と改称、昭和四十九年には創立百年祭が行われ、現在に至っています。

学校は、可児市の西部に位置し、豊かな自然、落ち着いた環境に恵まれています。地域には様々な伝統が息づき、人々の温かいまなざしに囲まれ、子どもたちは明るく元気に育っています。

学校のたからもの①  
働く姿

公民館をはじめとした地域の方、保護者の協力で、米作りを行っています。



▲FBC参加



▲自主的な清掃活動



▲植物の手入れ

の学年ではなく、やりたい者が、自分の好きな時間、場所で活動をしています。また、同じように有志であいさつ運動をしている子どもたちもいます。

これらの動きは、一つの学年が締めくくりの活動として始めたことがきっかけとなって広がったものですが、少しずつ学校の文化になりつつあります。取組や点検活動をできるだけ減らし、目的や願いをもって自分から動いていく子どもたちの姿を目指しています。

学校のたからもの③  
絆

子ども、先生の絆

働くことで自主性を育むだけではなく、人と人との結びつきも深まっています。「率先垂範、師弟同行」を大事にして掃除や給食配膳などを先生が先頭に立って行います。そうすると子どもたちは、「ありがとございます」と言いながら、一生懸命働き始めます。そんな姿を認めていくことで、さらに子どもたちは自分から動くようになり、共に汗を流すことで信頼関係が深まっています。

また遊びや雑談など、授業以外でのコミュニケーションも大事にしています。休み時間には、先生と子どもが一緒になって遊んだり笑顔で話したりする光景が見られます。先生と子どもとの絆が深まることで、気軽に相談し、安心して生活できる雰囲気生まれ、子ども

も同士のびのびとした明るい仲間関係をつくっていくことができます。

学校を支える絆

米作りでできた米は、販売をしたり、餅つきをして食べたり、花餅をつくったりもします。そうした活動を支えているのは保護者、地域の方です。また、町探検を行うときの付き添い、ヘルマークの整理等、様々な場面で保護者が積極的に学校の活動を支えています。地域の見守りの方は、ただ通学路に

▼地域の方による昔の遊び体験



▲地域の方の指導で行うクラブ活動



▲保護者による読み聞かせ

の中に多く盛り込まれ、自然な形で子どもたちが労働の大切さを体感し、体を動かす習慣を身につけていきます。

学校のたからもの②  
自主性

米作りなどの働く体験から発展して、日常生活の中でも子どもたちが自主的に動いていけるようにしています。朝の活動前や休み時間に、廊下や通路などを有志の子どもがきれいに汚れを落としています。決められた係や特定



# 多治見市立 多治見中学校

【たじみしりつたじみちゅうがっこう】

- 住所 〒507-0803 多治見市美坂町4丁目10番地
- TEL (0572)22-3327
- FAX (0572)21-2118
- メール c41102@mx.gifu-net.ed.jp
- 生徒数 432名

学校の教育目標

## よく考え、認め合い、 誠実にやりとおす

願うさわやかな姿：たじみちゅう

- た：たくましく（掃除）
- じ：自分から進んで（挨拶）
- み：みんなと共に（合唱）
- ち：地域を愛し（ボランティア）
- ゆ：夢に向かって（授業）
- う：動く 生徒

### 学校のたからもの



会などを中心に、様々な記念事業を行いました。

## 学校のたからもの① 全校をリードする生徒会活動

本校では、学校生活の五本柱として「挨拶・授業・掃除・合唱・ボランティア」を掲げ日々活動しています。

その活動を全校の中心となってリードしているのが、生徒会執行部と委員長の役員十二名です。

前期役員の仕事は、始業式・入学式の翌日に行われる対面式から始まります。司会進行から生徒会活動、授業や生活のきまりまで、工夫を凝らして説明していきます。

さらに、五月の体験学習前になると時間行動キャンペーンが始まります。学級の仲間が声を掛け合い、一日を通して時間を守って行動することを意識します。余裕をもって授業や活動に向かっ



▲生徒会執行部



▲後期生徒会認証式



▲花火大会翌朝清掃

構えをつくることで、研修そのものをよりよい体験にしていることとするための活動です。

その際、役員が口にするのが、「日常と行事は両輪」という言葉です。行事のときだけ頑張るのではなく、自分たちの生活を日常から高めていくことが行事を成功させる秘訣であるという気持ちが入められています。

この言葉は前期最大の行事である体育祭でも聞かれました。取り組む中で熱が入りすぎて授業があるそかになったり、掃除の開始時刻に遅れそうになったりすることがあります。そんなときも「日常と行事は両輪」という言葉を繰り返すことで、自分たちの活動を見直すのです。おかげで、体育祭は大成功に終わり、誰もが充実感をもつことができました。また、参観された方たちに爽やかな姿を見ていただくことができました。

十月十日から後期に入りました。後期

本校は、昭和三十二年に陶都中学校から分離し、現在の地で多治見中学校として開校しました。市役所や県立高等学校二校に隣接する旧市街地の養正小学校区、および、新興住宅地と古くからの町内を校区にもつ滝呂小学校区からなっています。滝呂小学校区の新興住宅地には県外など他地区からの転入も多くみられます。

現在の校舎は平成十二年に完成しました。自然との融合が図られ木材がふんだんに使われたユニークなつくりから、完成以来、教育関係者や設計などを学ぶ学生さんが全国から視察に訪れています。

昨年度、創立六十周年を迎え、講演

## 沿革・地域の自然や風土

## 校歌

### 多治見中学校校歌

作詞 小林純一  
作曲 中田喜直

- 一、三ツ池に清水たたえる  
星ヶ台美坂ぞここに  
そびえたつ校舎高窓  
多治見おお多治見中学  
見よ大空に光あふれて  
御嶽はきょうも麗し
- 二、海越えてその名輝く  
窯業の歴史を受けて  
新しき文化つちかう  
多治見おお多治見中学  
ああ流れゆく土岐を望み  
若き日の夢を果てなし
- 三、濃みどりの旗にゆかしき  
美濃の花桔梗よ香れ  
清らかな誠しめして  
多治見おお多治見中学  
いよ学べ皆日々新たに  
励め皆友とむつみ



▲体育祭

の生徒会長が就任の挨拶の中でこう話しました。

「後期生徒会役員として全校のために頑張つて働きます。全校の皆さんも生徒会を中心として、この多治見中学校がよりよいものになっていくように、行事やキャンペーンなどに全力で取り組んでいきますよ。」

生徒会執行部と委員長たちが自信をもつて全校をリードしていく姿は、これからも引き継いでいきたい姿です。

## 学校のたからもの② 地域に信頼される ボランティア活動

平成十四年、生徒ボランティア組織「輝き隊」が発足しました。これは、積極的に地域に関わつていこう、地域に貢献していこうという思いからできたものです。そして「輝き隊」のメンバーは全校生徒です。

ここ数年の「輝き隊」の活動は、春のたじみ陶器祭りの手伝いに始まり、公民館や老人ホームの行事、スポーツイベントなどの補助、わたしの主張大会の司会進行や市の花火大会の翌朝清掃など多岐にわたっています。また、年間を通して各方面から依頼があります。

依頼があるたびに全校からメンバーを募ります。クラブなどの活動があつてなかなか参加できない生徒もいますが、熱心な生徒は年間十回以上参加することもあります。自分の意思で参加

するので当然意欲的に活動します。そのため、依頼者からの評判もよく、毎年依頼されるものも多くあります。

## 学校のたからもの③ 校舎に響き渡る合唱活動

合唱は、全校生徒が自信をもって取り組んでいる活動の一つです。学級ごとに曲を選択し、年間を通して練習しています。

発表の場としては七月の学年合唱コンクール、市内の全中学校の二年生が参加する音楽祭、十二月の全校合唱祭があります。

これらの時期になると、学級同士で話し合つて合唱交流会を行います。多くはどちらかの教室で行いますが、自信がついてくると中庭で行います。校舎の特徴を生かした中庭での交流は、多治見中学校ならではの活動といえます。

中庭は教室前の廊下から見ることができ、中庭での交流会があるときは昼の放送でアナウンスされます。そこで、他の学級は交流会を参観し、自分たちの合唱の参考にしたり刺激を受けたります。

交流会は同学年だけではなく、他学年とも行います。それにより、上級生が下級生に歌唱の技術だけではなく、取り組む姿勢、心を伝えていきます。

こうして一年間取り組んできた合唱は、卒業式で最高のエンディングを迎え

ます。卒業生は二曲、在校生は一曲ですが、この日のために精一杯練習して臨みます。

合唱で絆を深める。これからも大切にしていきたい活動です。



▲合唱祭



▲中庭合唱交流会

# わが子のあゆみ

2018.1 No.451 初春号

表紙 垂井町立宮代小学校

学校のたからもの 1

岐阜市立藍川小学校/郡上市立三城小学校/可児市立春里小学校/多治見市立多治見中学校

わが家の宝物 大野町立西小学校PTA 会長 江崎重子 9

特集 PTA役員の選び方 11

連載 PTAのABC (PTAの生い立ち④) 17

家庭教育応援団! ⑳ 19

実践紹介1 「わが家の約束」  
実践紹介2 「ノーマディアデー」

「多様性尊重の教育④」シリーズ みんな、いっしょに 21

岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 安田和夫

保健室ノート

郡上市立明宝小学校 養護教諭 森永千文 23

私の先生㉑

垂井町立不破中学校 教諭 安田一平 25

子育て半生記

瑞穂市立牛牧小学校PTA 会長 藤田佳正 27

可児市のPTAふれあいニュース [vol.9] 29

高山市立本郷小学校PTA  
高山市立国府小学校PTA  
高山市立久々野中学校PTA  
高山市立荘川中学校PTA

私が出会った1冊の本【続34】 31

美濃市立大矢田小学校PTA 会長 永井和将  
羽島市立中央中学校PTA 福田優子

わが家の約束 33

土岐市立駄知小学校PTA 母親委員長 小木曾和美  
関ヶ原町立関ヶ原中学校PTA 会長 坂東崇

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い

本巣市立弾正小学校 3年 杉山美優  
御嵩町立伏見小学校 6年 澤田そよか  
養老町立東部中学校 3年 大倉梨夏

親の願い

羽島市立福寿小学校PTA 会長 塘本理一郎  
恵那市立山岡中学校PTA 会長 水野廣善

教育の窓

関市立洞戸小学校 教諭 石井美紀  
高山市立北稜中学校 教諭 新谷泰浩

親子ではてな 40

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42  
小松菜の煮びたし

ふるさとの伝承 43

山県市立いわ桜小学校

きらり!キッズ! 45

多治見市立南姫小学校

夢中!熱中!我がが部活 47

御嵩町立向陽中学校

私たちのPTA 49

岐阜市立厚見中学校PTA

## わが家の宝物

大野町立西小学校PTA会長  
江崎 重子



### 我が家で集める宝物

子どもたちに、「我が家の宝物はなにかな?」と聞くと、中三を筆頭に小一まで四人が、

「え〜。知らんの? 分かんないや。」「教えたるて。子どもやろ。」  
「家族やて。」と口を揃えて言った。嬉しすぎて、泣きそうになるのを堪えた。

思えば、私とお父さんのちょっとした一言や行動を見ていて、さりげなくプレゼントをしてくれたり、手をさしのべてくれたりする。これは親の役目だぞと思うくらい、皆よく気を利かせてくれる。ちょっと褒めすぎか。

我が家は、何かを決めるときは、必ず全員参加の家族会議。話し合いと古典的なジャンケンで最終的に決定権を持つ者を決める。そして、小一が勝っても従う。文句は受け付けない。

そして、一番大事な行事は、誕生日。ケーキ・メッセージ・歌。何より大切な記念写真。一年に六回ある特別な日。何があっても、これからも続けていく、我が家の大切な宝物集めである。



# PTA役員を選び方

PTA活動が大切なことは知っています。わが子もPTAの皆さんに守られているし、自分の勉強にもなるから、できるだけ参加するようにしています。でも、学校行事やPTA活動に出席し、参加することが精いっぱい、役員になるなんて、現状、無理！

でも、誰かがやらなくちゃいけないし、子どもが学校でお世話になっている間だけだから、頑張ってみようかな。学校へ行く機会が増えると、子どもや先生方の様子も分かるし、他の親さんとも親しくなれるような気もするし。

仕事どうしよう？会社や上司・同僚に分かってもらえるかな？取引先の約束があったり、出張もあるし…。休めば収入に響くし…。結局、職場にもPTAにも迷惑をかけてしまうよね。

出席100%は無理、どうしてもダメな時は、欠席許してもらえようね。無理しないでできる範囲で、というのなら役員やってもいいかな？

家族の協力も必要だよな、分かってくれるかな？夜の会議なんか、許してくれるかな？

.....

年度末から年度始めにかけて、各PTAで役員の改選が行われます。会長・副会長・書記・会計などの本部役員、研修委員会・学年委員会・健康委員会・広報委員会・校外生活指導委員会などの専門委員会の委員長、そして学年・学級委員と専門委員などPTAの規模にもよりますが、委員長・委員の選出が行われます。

この時期になると、役員決めに関わる悩み相談の電話が編集部に入ることもあります。

それは前出の例のように、会員一人ひとりの様々な事情が「役員選出の決まり」に受け入れられないことによるものと思われれます。かつて、昭和の三世代同居時代から核家族化社会へ、正社員雇用から派遣社員雇用への変化、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法などによって女性の社会進出が進展するなど、私たちの生活実態が大きく変化している中で、PTA活動と役員の選出などが旧態であることも背景にあるようです。

毎年、役員の改選があるPTA側にも、会員の減少や価値観の多様化など、様々な悩みがあるようです。

そこで「PTA役員を選び方」

# PTA役員を選び方

## 1 本部役員を選び方

- ① 選考（指名）委員会は何名で組織され、その委員はどのように選びますか。
- ② 選考（指名）委員を選ぶ時期は何月頃ですか。
- ③ 選ぶ役職は？会長・副会長・書記・会計・その他（委員長など）人数と役職をお書きください。
- ④ 候補者の選考と基準（学年、地域、任期、役員歴など）
- ⑤ 候補者へのアプローチと決定までの手順
- ⑥ 候補者に各職の内容（会議の日程や回数、市町の行政に関わる充て職の説明、市郡のPTA行事や会議の頻度など）の説明はありますか。
- ⑦ 立候補者が出た時の対応は？
- ⑧ 任期はありますか。単年度制でありながら、複数年の希望が出た時の対応は？
- ⑨ 免責（家族に介護の必要な人がいる、など）事項はありますか。
- ⑩ 就任の了解が得られない時は、どのように対処しますか。

## 2 学級委員を選び方

- ① 選び方は？（投票・ローテーション・くじ・じゃんけん・他）
- ② 対象となる委員会は？（貴PTAの委員会名をお書きください）
- ③ 会員に、委員会の内容や会議等への出席回数など、事前に説明はありますか？
- ④ 委員は希望すれば複数年（回）行う事が出来ますか？
- ⑤ 免除事項（家族に介護の必要な人がいる、など）はありますか？
- ⑥ 就任の了解が得られない時は、どのように対処しますか？

## 3 貴PTAの役員選考での課題は何ですか？具体的にお書きください。

また、目指すPTAの姿（理想も含めて）をお書きください。

の実例を紹介して、参考に供することとしました。

\*各PTAにお訊ねした内容は上記の通りです。

### PTA役員を選び方

例一（A小中PTA・会員数九十八名）

#### 1 本部役員を選び方

- ① 次年度の本部役員は、今年度の同役員七名が候補者を選考している。
- ② 省略
- ③ 選ぶ役職は副会長、母親委員長、母親副委員長、書記、会計各一名となる。本部役員会は、会長一名、副会長二名、母親委員長一名、母親副委員長一名、書記二名、会計二名、顧問一名で構成され、このうち会長と副会長一名については前年の副会長と会計が就任する予定である。また顧問は校長先生に、書記、会計のうち各一名は学校職員の方に就任頂いている。
- ④ 候補者の選考と基準候補者の選考について、副会長は②に記載した通り、その翌年に会長となる予定で、任期は実質二年になることから（任期は一年であるため、都度PTA総会での承認

が必要、就任時に子が中学二年生となる保護者を対象とし、母親委員長については子が最上級生となる保護者を対象としている。その他の役職について特段基準は設けていないが、本部役員歴のある人は極力選考しないようにしている。

#### ⑤ 九月初旬に候補者を選考し打診を行う。内諾が得られれば十月下旬に本部役員全員で候補者へ正式に依頼する。その後、評議員会（本部役員および学級委員、地区委員で構成）において選出

- ⑥ 候補者の方には、役職の内容（特に副会長候補の方には、翌年の会長候補となることや、市PTA連合会、町内を含む会議・行事の大まかな日程や回数など）について、事前に十分に説明すること心掛けています。
- ⑦ これまで立候補者が出た前例がない。
- ⑧ 任期は一年となる。④で記載したように実質二年である場合にも都度PTA総会での承認を必要としている。
- ⑨ 免責事項は特に設けていない。
- ⑩ 就任の了承が得られない場合は、

その理由を聴取したうえで説得を試みるか、やむを得ない事情がある場合に別の方を選考するかを判断している。候補者の方が引き受けられない場合を想定し、選考の段階で補欠の人員を確保しておく。

## 2 学級委員の選び方

- ①学級委員の選任については、十二月頃に各学年の保護者の投票により決定している。投票の際に、参考事項として直近三年間の就職履歴を掲載している。
- ②学級委員会。
- ③特に行っていない。
- ④基本的には、毎年各学年の保護者による投票となるが、妨げるものではない。
- ⑤免責事項は特に設けていない。
- ⑥就任の了承が得られない場合は、その理由を聴取したうえで説得を試みるか、やむを得ない事情がある場合には投票の次点者の方をお願いするかを判断している。

## 3 役員選考での課題・PTAの目指す姿

小さな町であり生徒数の少ない学校であるため、保護者の方々は、PTAだけでなく地区および子ども会等何らかの役職を、ほぼ毎年引き受けなければならない場合がある。負担は大きいですが、皆さんにPTAに関するご理解とご協力をいただいている。今後もこの町ならではの、保護者同士、地域の方々の絆を深めていきたい。

## PTA役員選び方

例二（B小PTA・会員数二三名）

私たちの小学校の役員はPTA会員数一三三名・各学年一クラスという比較的小さな小学校ですが、本部役員が会長・副会長二名・書記・会計・安全支援本部長の六名、各委員会の委員長・副委員長を担当する実行委員が九名、各委員会の委員を担当する地区委員が十五名、各クラスの学級委員長と副委員長を担当する学級委員が十二名の合計四十二名の大変多くの役員から構成されています。各役員の選出方法は以下の様な方法で決められています。基本的には各地区・各学級から役員を選出する方法をとっています。

### 1 本部役員の選び方

本部役員の選出方法は、毎年十月末までに、退任する本部役員の手が少なく免除者以外から引きで決めることが多くなります。五年生までは学級委員の立候補者が多くくじ引きにより決まること

### 3 役員選考での課題・PTAの目指す姿

私たちの学校では、保護者の約三分の一近くが何らかの役員を担当しており、核家族化が進み、女性の社会進出も増えている状況で、これだけの役員が本場に必要なのかとの意見も出てきています。本部役員会や実行委員会

は平日の夜に行われることが多く、実際に役員会の場で子どもたちだけで留守番をしている割合を確認したら、三分の一近くが夜の時間帯に子どもたちだけで留守番をしていることが分かりました。本来は子どもたちのために活動を

いる地区の実行委員が、次の本部役員を各地区の中から決める様に昨年から変更をしました。従来は退任する本部役員が次の本部役員を見つけてくるやり方でしたが、このやり方ですと次が見つからず、辞めたくてもなかなか辞められないので、何年も本部役員をやらなくてはいけなくなりました。

一度やったらやめられない、自分で次の役員を誰かに頼まないといけない状況では、本部役員の引き受け手がどんどんなくなってしまうので、自分で次の役員を見つけてくるのではなく、各地区の実行委員に次の役員を選出をお願いする制度に変更しました。こうする事で、退任したい時に退任ができるようになりました。

各地区での決め方はそれぞれで、立地区にお任せをしているので、立候補・じゃんけん・くじなどそれぞれ各地区の取り決めがあります。依頼するときは、本部役員の仕事の内容が分かるように実行委員への本部役員選出依頼の文書の中に本部役員の仕事内容を記入し、ある程度内容を知ってもらった上で、引受けてもらうようにしています。

本部役員の仕事については、二年目になる役員の中から会長を話

もらい、打ち合わせが必要なことに時間を使うようにすることで、少しでも早く終われるような努力をしました。

私たちのような小規模な小学校で、これだけ多くの役員が本場に必要なのか、担当する行事の見直しや仕事の分担を見直すことで少しでも役員の人数を減らさないか

など、今後の問題は色々あると思いますが、短い任期の中で全てを見直すことは難しく手付かずになってしまふことが多いのではないかと思います。そのためにも、現役員と新役員の間で問題点を共有し、これまで進めてきた事や今後やらなければいけない事の引継などをしっかりと行い、現状に合ったPTA組織に変えていかなければいけないと思います。

し合い・くじなどで選出し、その他の役職については話し合いで決めていきます。ただ、会計は内容も分かりにくく、二年目の人がやってしまうと翌年に聞く人がいなくなってしまうので、会計は一年目の方に担当してもらい、前年の会計の人に聞きながら仕事を進めて貰っています。

本部役員の任期は基本的に一年ですが、二年間本部役員を務めることでそれ以降の役員（本部・実行・地区・学級）全てが免除されることになっていますので、計画を立てて本部役員をやられる方もいらっしやいます。ただ、現在は家庭の事情などによる役員の免除規定を本部として設けておらず、各地区にお任せをしている状況です。そうといった配慮も今後は必要になってくると思われ

### 2 学級委員の選び方

実行委員・地区委員は十二月の中頃までに、各地区の実行委員が次の委員を決める事になっていま

す。各地区から選出していたく役員

の人数は、その地区の児童数により実行委員〇名・地区委員〇名と決められていますので、それに従い実行委員と地区委員の選出を

## PTA役員選び方

例三（C中PTA・会員数三七名）

### 1 本部役員の選び方

①選考委員会は、当校では「推薦委員会」と呼ばれます。推薦委員会は、教職員二名を含めた本部役員十四名と、各地区から選出されている代議員二十一名で組織されます。

②選考（指名）委員（当校では「推薦委員」）は、当校のPTA規約によりすでに規定されており、改めて選ぶことはありません。推薦委員会の活動を始めるのは、毎年度九月頃です。

③選考対象となる役職は、本部役員九名（会長、副会長（男女）、書記、会計、環境整備部長、校外指導部長、広報部長、代議員長）です。

④九月初旬に候補者を募ります。対象の学年は、現一・二年生と、小学校六年生の保護者です。当校では、役職の地域割りはありません。また、過去の役員歴に関係なく、

- ⑤ 立候補者により決定できる役職があれば、それで決定します。しかし、決まらない役職については、選考委員会で協議し、過去の役員歴などを参考に候補となる方を選出し、アプローチを行います。
- ⑥ 本部役員の役職について興味があるとの返事をもらっている方に対して、その役職の役割について説明を行います。
- ⑦ 立候補者が出た場合は、特段の問題がない限りその立候補者で決定します。
- ⑧ 本部役員の任期は一年です。しかし、再任を妨げません。
- ⑨ 役員歴のある会員については、免除規定があります。家族に介護の必要な人があるなど、特別な理由がある場合の免責事項は規定されていません。しかし、個々の会員の状況を確認したうえで、免責の対象とすることはあります。
- ⑩ 未決定の役職については、くじにより選出します。会員が、くじにより決定された役職への就任を拒んだ場合は、その会員自らその役職に就任できる人を探していただきます。

- まず立候補者を求めます。
- 2 学級委員の選び方
- ① 新年度に、各学級二名を選出します。選出方法は、立候補です。決定しない場合には、くじにより選出を行います。
  - ② 選出委員会はありません。
  - ③ 選出された学級委員に対して、その委員会の活動内容や会議、研修会への出席回数などを、本部役員から説明します。
  - ④ 各学級単位なので、基本単年度の任期です。しかし、翌年度も希望すれば学級委員を行うことは可能です。
  - ⑤ 役員歴のある会員については、免除規定があります。家族に介護の必要な人があるなど、特別な理由がある場合の免責事項は規定されていません。しかし、個々の会員の状況を確認したうえで、免責の対象とすることはあります。
  - ⑥ 学級単位で、話し合いで決定します。
- 3 役員選考での課題・PTAの目指す姿
- できるだけ「くじ」による選出を避けること。子どもたちのために、一肌脱いでくれる意欲的な役員で本部役員を構成し、PTA活動を引っ張っていくことを目標としています。
- 「一年間の活動予定表を見る」ことは「役員に就くよう要請する選考委員が本部役員を経験していない場合、活動の詳細まで把握しておらず、説明が不足したり、推測に基づいてしまったりしがちだ。そこで、本年度の活動予定表を見せてもらいながら、現役の役員を交えて説明を受けることが重要だ。活動ごとに内容や準備、それに必要な手間などが把握できると、役員を引き受けた後の自分自身の生活をイメージしやすい。
- 同時に、そうした活動をやむをえない事情で欠席するときに言いやすい雰囲気があるか、未就学児を会議などに連れていけるかどうかも聞いておきたい。これは、PTAによって違うので、現役の役員に確認しておく。
- これらは、選考委員や本年度役員、声を掛ける側も意識したい。一年間の予定表を準備して、集まる頻度や活動の曜日、時間帯を具体的に伝えると、引き受ける側は安心できる。
- 「ある日すっかりPTA」（KADOKAWA）の著者で書評家の杉江松恋さん（四十八）は、小学校のPTA会長を三年間務めた体験について、「大変だったが、地元の間関係が豊かになった」と振

# 本部役員依頼されたら

【中日新聞の記事より】

（編集部より：PTAの名前を伏せて紹介しているのは、現役員や来年度役員になる方への配慮からです。「もっと詳しく知りたい場合の質問内容」や、「このような方法もあるよなどのアドバイス」を編集部へお寄せください。編集部で仲介したり、アドバイスを次号に掲載したりします。）

小中学校や高校などでは、来年度のPTA本部の役員決めが本格化してくるころ。しかし、なり手はそう簡単にはみつからない。引き受けてほしいあまり、実際よりも負担を少なく説明してしまったという話も聞く。そこで、引き受けた人が「こんなはずじゃなかった」と後悔せず、前向きに活動していくためには、役員決めの段階でどんな注意が必要だろうか。（今川綾音）

活動内容を事前に確認

「聞いていた説明とあまりにも違う」。東京都内の小学校で本年度、PTA本部の書記を務める三十代女性会社員は、不満を隠さない。役員を頼まれたときに聞いた説明では、活動は月一、二回で土曜の午前だけのはずだった。しかし、いざ始まると、土曜日は毎週PTAの活動で午前も午後もつぶれてしまう。昼食の時間すらないことまでざらだ。

それでも終わらず、子どもを寝かしつけた後、深夜まで自宅で書類作りなどの作業をしたこともある。「複数年役員をする人もいて、自分でも来年度もやらなくてはという思いもあった。でも、毎週土曜丸一日となると、家のこともで

「本部役員になって」と声を掛けられた時の注意点

- ◆活動の実態◆  
集まる頻度や活動の曜日・時間帯を具体的に教えてもらう→できれば年間の活動予定表を見せてもらう。
- ◆未就学児への対応◆  
同伴可能かどうか、念を押して確かめる→「誰かに預ける」が暗黙の了解の場合も。
- ◆仕事との兼ね合い◆  
平日昼間の活動の有無。活動する場合は、仕事を理由とした欠席がどの程度生じるかの見通しを伝える→総会、入学式、卒業式などの学校行事への参加が求められるPTAが多い。
- ◆夕方・夜の集まりについて◆  
会長は、自治体や近隣校長会など、校外の会議や行事への参加を求められる。代役を頼めるかどうかの確認も。留守番できない年齢の子がいる場合、欠席が可能か。子連れで参加できるのか。
- ◆その他の注意点◆  
学校創立50周年など、周年行事のある年かどうか。会長会や広報紙コンクールの幹事校に当たる年かどうか。→準備や接待が必要になり、活動が大幅に増える。

（引用：中日新聞平成29年10月27日掲載）

# PTAのABC

連載④  
PTAの生い立ち④

## 岐阜県におけるPTA活動の展開

### 1 PTA活動の発足

#### 育友会創立奨励

昭和二十二年（一九四七）四月の新学制発足にあたって、文部省は三月五日付で手引書「資料『父母と先生の会』」を送付した。続いて五月には設立要領が示され、その後小中学校でPTAが設立されていった。

岐阜県では十一月に地方事務所長から小中学校長あてに通牒「育友会（仮称）結成について」が出され、二十三年二月一日までに必ず結成することとされた。こうして県内に育友会が結成されていった。

二十三年度において、県社会教育課は、文部省PTA委員会作成の「参考会則」「模範PTA活動判定の基準」によってPTA活動の評価をするように求めた。この基準には、PTA活動を振り返る二十三評価項目が設定されている。

#### PTA（育友会）の方向づけ

岐阜県では戦後PTAが発足して以来、公式名称を育友会としていた。PTAと改称されたのは、三十三年以降であった。ただし、三十三年以前においても一般にPTAと呼称される場合も少なくなかった。

県教育委員会は、二十五年にそれまでのPTAの実態と問題状況を踏まえ、次のように「PTAの性格」を規定し、PTA活動の方向付けを行った（「岐阜県教育」昭和二十五年年度版）。

#### PTAとは

父母と先生の会の賢明な協力によって、子どもの幸福のために、よりよい家庭を、よりよい学校を、よりよい社会を、そしてよりよい世界を作

らうとする使命をもつ団体であり、

①家庭・学校・社会の三者が一体となって、子どもの福祉を中心に考えていく教育的な団体であり、

②世の父母が自分の子どもだけでなく、社会のすべての子どもに対する深い関心と、理解と愛情を注ぐための団体であり、

③家庭生活および社会生活の水準を高め、民主社会における市民の権利と義務に関する理解を促すために、父母に対して成人教育をする団体であり、

④学校の教育的環境の整備をはかり、その地域における社会教育の振興をたすける団体である。

右の性格規定には、PTAの非学校援の団体化を明確化するだけでなく、「子どもの幸福のために」、家

庭、学校および社会をつくり変える

とともに、父母の成人教育に取り組み社会教育団体としての基本的な在り方が示されている。

二十三年に結成された「岐阜県連合育友会」は、こうした動きに応えて二十五年に機関誌『PTA教室』を創刊し、翌二十六年十二月には同誌を『わが子の歩み』と改称し、続刊し現在でも発刊している。機関誌にはPTAに関する研究や実践報告が掲載され、県内の各単位PTAの発展に貢献した。

#### 単位PTAの活動

それでは、PTA活動の基本的な土台ともいべき各単位PTAの組織や活動実態は、どのようなものであったのか。その具体的事例を三十一年度の加茂郡神淵小学校育友

会を通して見てみたい。

同育友会は、三十年度第一回全国PTA協議会表彰、PTA文部大臣表彰を受賞したいわばモデル的なPTAであるが、『わが子の歩み』（昭和三十一年十月一日）によれば、「児童憲章の精神の普及」と、子どもにとって「よい環境」の内容について「わかり合うため」の活動が目標とされた。そこでは事業部、財務部、厚生部、研修部、奉仕部、社会部を置き、学校や家庭における教育の在り方を研修するとともに、学校視察などを通して教育環境の改善と整備に主力が注がれている。同育友会の年間の活動計画は、右記図のとおりである。

三十一年八月二十二日、全米PTA会長ブラウン女史が来県し、大垣市東中学校、岐阜市京町小学校、

月別	行事	摘要	主体となる部会等
四月	総会 遠足 実行委員会	規約改正、役員決定と各常任部会編成 学級委員付添参加 行事計画と予算編成	学年会 事業部、財政部
五月	長欠児童家庭訪問 実行委員会	欠席十五日以上の児童 行事の内容審議 会報編集	厚生部
七月	各常任部会 教育座談会 資金獲得事業 実行委員会	本年度行事の実施について 前学級委員及び教員 総会提出議案作成 家庭教育経験発表	研修部 奉仕部
八月	実行委員会 夏休み楽しい会 地区親子の集い	夏休み行事について 会報編集 龍門寺に於て 各地区に於て	厚生部 社会部
九月	学校環境整備 学校視察	優良育友会及び学校視察	奉仕部 研修部
十月	運動会参加 資金獲得事業	バザー開設	厚生部
十一月	学校参観 学級会 学年会 実行委員会	家庭教育経験発表 映画 予算の再検討 会報編集	事業部 学級委員会 学年会 研修部
一月	長欠児童家庭訪問 反省会	第三回 全学級委員	財務部 厚生部
二月	学校参観 学級会 学年会 卒業、終業式参加	家庭教育経験発表（後輩）（後援） 学級会 学年会 祝品、記念品授与	学級委員会 学年会 研修部
三月			社会部
自五月至三月	地区親子懇談会	各地区に於いて数回宛開催	

## pleasure イラスト&クイズ



P.N. のいず（関市）



P.N. Tomosaburo（養老郡）

### QUESTION - 1

ばいきんをやっつける「けん」ってどんな「けん」？



出題・山下 琥太郎（大垣市）  
〈答えは41ページ〉



実践紹介2 白川町立佐見保育園・佐見小学校・佐見中学校

ポイント 保小中が連携し、地域ぐるみで取り組む「ノーメディアデー」

佐見保育園・佐見小学校・佐見中学校では、毎月1日と15日をノーメディアデーとし、保小中が連携して在宅取組型の「話そう!語ろう!わが家の約束」運動に取り組んでいます。

開始以来3年間、長期休みや曜日も関係なく、毎月1日と15日をノーメディアデーとし、継続的な取組をしています。

【取り組み方法】

①各家庭でチャレンジメニューを決定!

②各家庭で参加者を決定!

③ノーメディアの時間に何をしておこなったかを記入。

裏面は...  
読書奨励の観点から読書記録カードになっています!

チャレンジメニュー		参加者
A	1日中ノーメディア	家族みんなで
B	食事の、学習のノーメディア	親子で
C	1週間ノーメディア	子どもだけで
D	2週間ノーメディア	
E	その他(家庭で決めた内容)	

【参加者の感想を紹介します】

1日中ノーメディアのおかげで、「吾輩は猫である」が読みました。(中略)全部読んでいないので6月中に読み終わりたいです。(チャレンジA:小6)

テストに向けての勉強をしました。就寝1時間前は、読書と明日の時間割をするなどしてメディアから離れました。(チャレンジC:中学生)

食事中・学習中はいつも意識していました。親子で気を付けられてよかったです。(チャレンジB:小2保護者)

久しぶりにかたをしました。(中略)こういう遊びができるのもノーメディアだからこそですね。(チャレンジB:保育園保護者)

メディアを離れて読書や家族とふれ合う時間を作りたいという願いが、3年間地域ぐるみの取組を継続する原動力になっています。3年の間には、子どもや保護者が無理なく取り組めるように、ノーメディアに取り組む時間や参加者を選択できるような改善が加えられています。

継続・発展しながら生活習慣の見直しを図り、同時に読書習慣をつけたり、家庭内のコミュニケーションを深めたりする素敵な取組です。

県のホームページでは家庭教育に関わる情報を発信中!ぜひご覧ください!!

岐阜県 家庭教育学級

検索

お気軽にご相談ください!

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

- 環境生活政策課 ☎058-272-8752 (直通)
- 西濃県事務所 ☎0584-73-1111 (内線219)
- 中濃県事務所 ☎0575-33-4011 (内線210)
- 可茂県事務所 ☎0574-25-3111 (内線208)
- 恵那県事務所 ☎0573-26-1111 (内線208)
- 飛騨県事務所 ☎0577-33-1111 (内線206)

実践紹介1 各務原市立那加第一小学校

ポイント 「幸せと笑顔の家庭教育」をテーマにした「わが家の約束」

「幸せと笑顔の家庭教育」をテーマにした「わが家の約束」を設定し、家族で取り組むことを通して、家庭内のコミュニケーションを充実させ、家庭が心の居場所であると実感できるようにしたいという願いのもと企画されました。



【話そう!語ろう!わが家の約束】運動の進め方

①親子で話し合って約束を決める

テーマ「幸せと笑顔の家庭教育」

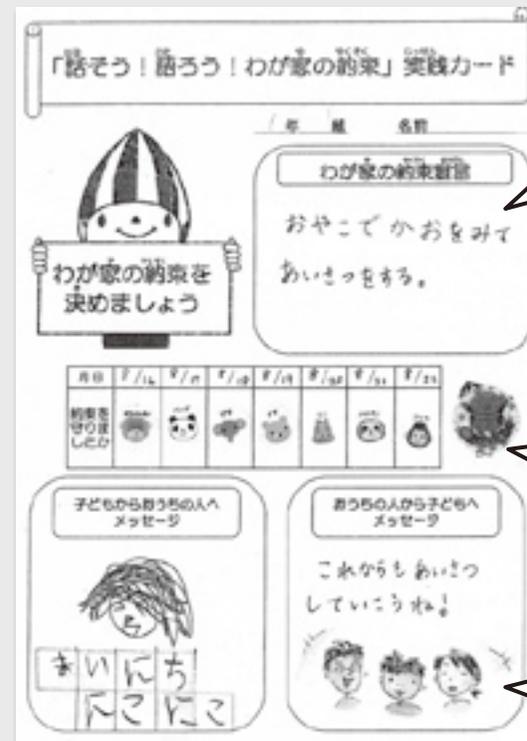
- 例・親子で顔を見てあいさつをする
- ・親子でありがとうの気持ちを言葉で伝える
- ・大好きのあるしに親子でハグをする

②夏休み中の7日間を設定し実践する

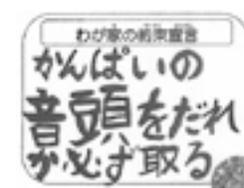
- ・毎日できたかどうかを振り返って、子どもを褒めたり励ましたりして、子どもの成長を応援しましょう。

③実践後、家族で思いを話し合い、お互いにメッセージを送り合う

- ・頑張ったこと、できたこと、よかったこと、うれしかったことなど、お互いに思いを伝え合ひましょう。



★素敵な「わが家の約束宣言」を紹介します!



【実践カードより】

【子どもからおうちの人へ】いつもお仕事おつかれさま。つかれて帰ってくるから笑顔で「おかえり」としか言えないけど、せめて、食事の始まりをかんばいの音頭で楽しもうね。

【おうちの人から子どもへ】いつも笑顔の「おかえり」をありがとう。家族でそろって食事をとって、1日の頑張りに「かんばい!」をすることはとても幸せなことだね。巣立つまで皆で食事しようね!

運営側の委員会からはテーマを「幸せと笑顔の家庭教育」とし、実践内容は各家庭に任せる「わが家の」としたことで、その家庭らしさが発揮されました。

どの家庭も子どもや家族をしばる「約束」ではなく、「よいところをほめ合う」「顔を見て〇〇」「目を見て□□」「笑顔で☆☆」など、心が温くなる「約束」に取り組んだことで、「これからも続けようね」「気持ちよかったね」「楽しかった」などの感想が聞かれ、家族のコミュニケーションが深まることの心地よさを改めて実感することになりました。子どもの心にも大人の心にも温かな灯がとまり、みんなが幸せな気持ちになれた素晴らしい実践です。



家庭教育応援団! 家庭教育学級取材記

復学支援—小児がんの子どもたちが抱える不安に向き合う—

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

「院内学級」のことは  
ご存知ですか？

皆さんは、病院の中に「院内学級」があることを知っていますか？入院をしている子どもたちが学ぶ場です。岐阜県の場合、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、大垣市民病院の中に設置されています。

この「院内学級」は、その病院が位置する地域の小中学校の分教室（病弱特別支援学級）としておかれており、先生方は、小中学校教員です。

担任の先生方は、病気やけがのために入院している子どもたちの「学びたい」という願いに応え、学習空白をできるだけ小さくすることはもちろんのこと、子どもやご家族の心のケアにも心を尽くしておられます。

家族や友達から離れる淋しさ、入院生活の不安、手術前の不安、恐怖、子ども一人ひとりが抱く様々な思いに耳を傾け、医師や看護師との連携のもと、助言をしたり、正しい情報提供に努めたりして

ています。

復学支援とは

院内学級の先生方に聞くと、心のケアとは、入院中のことだけでなく、むしろ、退院後の生活を思い描きながら、「復学支援」にどう取り組むかが、極めて重要だということです。

小児がんを発症し、入退院を繰り返す子どもたちの中には、入院前の学校のことを思い出しながら、「みんなは、ぼく（わたし）のことを忘れてしまっていないか」「ぼく（わたし）の席はあるだろうか」「（副作用で）髪の毛がなくなつたぼく（わたし）のことをどう思うだろうか」との心配は尽きず、退院が近づくと、退院でさる喜びと、同じくらい大きな不安を抱えるそうです。

担任の先生は、医師や看護師などと連携を深めるとともに、原籍校である小中学校の先生とも情報交換や確認作業を行い、安心して復学できるように準備を進めていきます。

たとえば、インターネットによるスカイプ電話を使って、退院前に、原籍校の先生方や級友とテレビで話すことで復学の不安が軽減された実践や、だれもない復学で入れていただいて、前と同じように机も椅子もあることを確認して、「よかった」と笑顔になれた実践も報告されています。ささやかなことのように思うかもしれませんが、この一歩を踏み出せるかどうか、重要なのです。

小児がんについて

さて、「小児がん」の治癒率はどのくらいだと思いますか。一般的に「がん」ということばの響きは非常に重く、なかなか未来を描くことが難しいイメージですが、実は、小児がんの場合、がんの種類や場所によっても違いますが、概ね七十〜八十%以上が治癒できるそうです。

恥ずかしながら、私も、小児が

いました。

この進行性骨化性線維異形成症（FOP）は、二〇〇万人に一人という極めて希な疾患で、日本での患者さんは約八十名と推定されています。幼少期より、まず背部の骨格筋や腱のような本来骨が存在しない部位に骨組織が出現（異所性骨化）し、徐々に四肢に広がり、著しい運動機能障害をきたす疾患です。

ニュースによると、京都大学医学部附属病院の戸口田淳也先生を中心とするグループが、iPS細胞を使って効果が期待できる候補物質として見出し、京都大学を含む全国四機関での共同治験となる見込みだそうです。

たとえ、病気、難病を患ったとしても、こうした医学、技術の発展と共に、周囲の正しい理解と支え合う社会が成熟することにより、「未来」を共に描くことができる地域社会を築いていきたいと考えます。

んの復学支援の研究チームに入れていただき、初めて知りました。医療・技術の進歩によって、刻々と、小児がんをはじめとする病気・難病に対する環境はかわってきています。同情や憐みなのではなく、未来志向で互いに見えること、支え合えることを見出していくことが重要だと思います。そのことが、差別偏見のない地域社会づくりにつながっていくのです。

絵本「おかえり！めいちゃん」

さて、そんな中、岐阜聖徳学園大学看護学部学部長の大見サキエ教授を中心とするグループは、「小児がん患児の復学支援ツールの開発」に取り組んでいます。復学に際しては、小児がん患児やそのご家族を支えることは大切ですが、それ以上に、復学する原籍校の子ども達の正しい理解と温かな迎え入れを引き出す支援が不可欠だと考えられたからです。しかし、原籍校の先生方も、小児がん患児を担任とし

て受け持つ機会はまだ少なく、どの学校でも使いやすくなりやすい「復学支援ツール」を作成し、活用していただくことができなにかとの問題意識から出発しました。それが、小学生向けの絵本「おかえり！めいちゃん 白血病とたたかった子どもが学校にもどるまで」です。読み聞かせを通じて、小児がんへの正しい理解を深めると共に、復学しようとする仲間に対する思いを深め、温かく迎えることができる心情を育むものです。

絵本の作成にあたっては、大学近隣の公立小学校にもご協力いただきました。絵本の読み聞かせを



制作 森邦生さん  
（絵本「おかえり！めいちゃん」のさし絵より）

心躍るニュース

いるところです。

そんな中、平成二十九年十月、難病のひとつである進行性骨化性線維異形成症（FOP）に対する治験が始まるというニュースが流れました。岐阜市内で、十何年と、この病気の理解啓発にご尽力されている方を知っているだけに、涙が出る思いでこのニュースを見て

pleasure  
イラスト&クイズ



PN. 37458 (揖斐郡)



PN. 外道 (岐阜市)

QUESTION -2

どんなことも「はい」といってくれる王様のしゅみは何でしょう？

出題・堀 希実 (羽島郡)  
〈答えは41ページ〉



school infirmary

# 保健室ノート

●郡上市立明宝小学校養護教諭  
森永 千文

## 家庭の力は偉大です

明宝小学校は、自然豊かな山間部にあり、全校児童五十八人の小規模校です。子どもたちは、素直でまじめです。本校は、「喜ばせる学校」自分をまわりを地域を「」を合言葉にしています。この指導方針に、最初は驚きました。その成果で、子どもたちは、喜ばせる挨拶や喜ばせる掃除を心がけています。

複数校勤めてきて、年々掃除をまじめにする子どもが減っているように感じていたが、本校の児童の多くが、掃除の時間中無駄口なしで黙々とまじめに掃除をします。掃除の仕方は教えないとうまくできないことはありませんが、まじめに掃除に取り組むことが当たり前になっていきます。また、まじめなので、けがや不調などの用事がなければ保健室に来てはいけな思っているようで、来室者数も多くはありません。

『子は親を映す鏡』といいますが、こういうまじめな子どもの姿には、親さんを含め家です。将来親元を離れた時の自立にも繋がります。子どもが、学校など集団生活で学ぶことはたくさんあります。集団生活は、集団内のきまりや制限があり、我慢や協力が必要な場だからです。だから、集団生活で多かれ少なかれストレスを感じています。そんなストレスがあっても、家庭で心が癒されてこそ、翌日学校でまたがんばることができると思います。子どもの心のエネルギーは、家庭で充電するものだと思うのです。家庭で、親さんの愛情を感じられるような触れ合いが充電になると思いますので、そんな触れ合いを大切にしていきたいと思えます。

ほんの些細なけがや不調で来室し、養護教諭に「甘えたい」という思いが垣間見られることもあります。そんな時には、少し心の充電が足りないのかもしれないと感じ

族の皆さんの心や教育方針、すなわち『家庭の力』が反映しているのだろうと思います。近年とても残念に思うのは、本校の児童に限らず、食事の時のマナーが身につけていない子が多く見られることです。

「食事のマナーが身につけていないと、大人になって職場などでの食事の時に、自分が恥をかくのは当然のこと、おうちのかたも恥をかくことになるんやよ。」と子どもたちに話すことがあります。時々、給食時間の指導で教室に入ることがありますが、食器を持たずに食べる子が特に目につきます。左手が机の下になっており、ごはんや汁物の入った食器に顔を近づけて食べているので、行儀悪く見えます。食器を持って食べるよう指導すると、食器を持つのですが、茶碗や汁碗の持ち方が正しくない子もいます。繰り返し指導はするものの、期間を置いて教室を見に行くのと、また同じような姿になっていて、がっかりすることがあります。

三回の食事のうち、学校で指導できるのは一回の食事の時だけなので、家庭でも食事のマナーを意識していただけるとありがたいと思います。

学校で子どもたちに関わっていて、つくづく思うのは、家庭の力は偉大だということですね。昨今それをますます感じています。

ます。だから、来室した子に対して、満足して教室に戻れる、教室でまたがんばれるという思いがもてるような温かい対応をすることを、私も心がけています。

また、学校でほめられることより、家庭で親さんにほめられることの方が、格段とその子の自信につながるということも思います。やはり、子どもは親さんに認められたいものなのです。良い結果だけでなく、結果はどうであれ、がんばった経過もほめたものです。また、些細なことでも子どもがやってくれたことには感謝したいものです。感謝もその子をほめ認めることだと思います。喜んでくれた、やって良かったという思いを味わうことで、またやってくれる子になると思えます。

◆私自身が『親』として思うこと  
よく言われる言葉ですが、『子どもは育て

まず、特に子どもの生活のリズム作りは、親さんのコントロールが必要だと思います。睡眠不足などの不摂生は、子どもの学校での姿、元気に大きく影響します。どんなに学校で指導しても、早く就寝すること、偏食なく何でも食べることで、歯みがきなど自分の健康を守るための意識や習慣は、家庭でも意識されていないとなかなか身につけません。健康的な生活リズムができており、偏食なく何でも食べて、学校で元気いっぱい過ごしているお子さんを見ると、家庭の力の賜物だと感じます。

また、子どもの、知恵や生活力の習得にも、家庭の力が大きいように思います。身支度、自分の身の整理や物の管理、お手伝い、調理など家庭での経験が、様々な場面で見かされると思います。宿泊研修などで朝から晩まで子どもと一緒に過ごす時、子どもの姿が本当によく見えます。自分の物の管理をきちんとし、使ったものを整頓できている子を見ると、これもまた家庭の力の賜物だと感じます。

子どもは、親の姿を見て学ぶことも多いですが、教えなければ全く知らないことも多いです。最初はわかるように教える必要があると思います。あとは、自分でできることは自分でやらせる、自分で考えてやらせるという経験の積み重ねが大事ではないかと思いま

たようにしか育たない』というのが私の子育ての持論です。わが子の良くない姿を見て、叱る一方で、内心では私の育て方がまずかったんだと自分に言い聞かせ、反省します。

同じ親から生まれた子どもでも、生まれた順番など育った環境によって、それぞれ個性が違います。私自身、親として同じようには育ててこなかったと自覚しています。でも、善悪の区別を初め、親の価値観が子どもの価値観に通じると思うので、自分自身が正しい価値観をもって、わが子に接し続けることはぶれないように思っています。

『子どもは、親が生きている理由であり、課題である。』という言葉聞いたことがありますが、本当にその通りだと私は思います。わが子が何歳になっても、親としての責任があると思うので、わが子の姿に課題を感じた時は、その課題に向き合い、これからも子育てをしていきます。

## 「夏の思い出」 恩師との出会い

垂井町立不破中学校 教諭

安田 一平

恩師の野球部の顧問の先生との出会いがなければ今の私は絶対にありませんでした。この先生のおかげで今の私があると言っても過言ではありません。そんな恩師との思い出を感謝と共に、ここに書かせていただきます。

私は父の影響もあり、小学生の頃から地元の野球少年団で野球を楽しんでいました。中学校に進学すると同時に野球部に入部した私は、ここで先生と出会いました。先生は、野球に対してとても熱心な研究者でした。年中休みなく練習をしてくださいました。私たちの一学年上の野球部は、県大会優勝こそありませんでしたが、毎年県大会上位に食い込むチームでした。そんなこともあり、練習は非常に厳しいものでした。特に、夏場のトレーニングは、今思い出しても泣きそうになるくらいハードなメニューばかりでした。私は、走ることはあまり得意ではなく、トレーニングで走り終わるのはいつも最後の方でした。一年生の頃は、暑い中一時間、多いときは二時間も続くようなトレーニングで泣きながら走っていたことを今でも覚えています。時には、けがを偽って休もうと思ったこともありました。そんな時に、先生は私を呼んで、「えらく苦しい練習も全ては己のためであること。どれだけ遅く、苦しもうであつても最後までやりきろうと頑張っているお前を評価している。どんなに苦しくてもつらくても最後まで精一杯やりきること成長がある。」と声をかけてくださいました。その言葉を受け、私は、ついていけない私のことも見ていてくれるととてもうれしかったことを今でも覚えています。

学校生活において、先生は学年主任という立場で、私の学年をよく見ておられました。私はというと、あまり先生方に好かれるような生徒ではなかったと思います。よく、担任の先生に反抗したり、他の生徒と喧嘩をしたりと今でいう問題行動を繰り返していました。(その時の先生方、本当にすみませんでした。) そんなとき、先生に呼び出されて、野球以前に生活ができていないことを厳しく指導され、「俺の視界に入るな。」と厳しい言葉をかけられました。今思うと暴言に近いような言葉かもしれせん。しかし、その時の私にはこれほど応える言葉はありませんでした。「何としても、この人に見てもらいたい。この人についていきたい。」そう思って、野球も生活も必死に頑張ろうと思ひ、自分が少しずつ変わるきっかけとなりました。

三年生になり、最後の大会が近づいてきました。私は、レギュラーとサブの当落線上にいました。何としても試合に出たいという思いから練習開始の二時間前には学校に行つて、毎日一人で自主練習をしていました。先生はそんなことを知らないと思っていました。今思うとどこかでその様子を見られていたのかもしれませんが、少しずつ試合でも使ってもらえるようになりました。そして、何とか最後の大会に出場し、ヒットという形で活躍することができました。

私は、この経験を機に、先生のようにどんな生徒であつても一人ひとりに寄り添い見守り続けて成長させることができる、そんな人になりたいと思うようになりました。

私は現在、先生がいつもおっしゃっていた「全国制覇」を今度は指導者の立場になって目指しています。今年度、中体連では念願の全国大会出場を果たし、一つの目標が叶いました。ですが、ここで終わりではありません。全国の舞台を経験して、野球だけではない「人間力」をテーマに、野球を通して人間形成を大切にしていきたいと思っています。「野球をやっていてよかった。」「野球を通して成長できた。」と一人でも多くの生徒に感じさせたい。そして、先生を超えられるように私も日々学び、生徒と共に成長し、いつの日か先生を超えたい、そう思っています。共に汗を流してくれる生徒達、日々支えてくださる保護者やコーチの皆様へ感謝申し上げます。精一杯頑張りたいと思っています。

先生との出会いが今も私の背中を押し続けてくれています。本当にありがとうございます。

## 私たち家族の成長



『場面緘黙』を知っていますか？  
私は、二人の息子と一人の娘に恵まれ、妻と私の祖父の六人で暮らしています。

長男は十七歳。本来なら高校二年生ですが、自ら高校を退学するという決断をし、高校の先生方の支援のおかげで、今は社会人として仕事を頑張っています。

次男は小学六年生。五歳頃に『広汎性発達障害』と診断され、小学三年生までは通級教室に通いながら、通常学級で学校生活を送っていました。小学四年生からは牛牧小学校に情緒の支援学級ができ、けやき学級で勉強をしています。

そして長女であり一番下の娘は小学四年生。はじめの問いかけである『場面緘黙』という、私たちが悩んでいる娘の症状です。その名の通り、家では一番うるさいくらい話をするのですが、学校では全く声を発しません。

娘は年少から幼稚園に入園したのですが、一年間は全く気づきませんでした。一年経ち、同じ幼稚園に通っていた次男が卒園し、娘が年中になってから全く声を出さなくなりました。当初は、仲の良い頼りにしていた兄が小学校へ入学してしまい、淋しさや不安で緊張しているだけだと思っていました。日にながら経っても状況が変わることがなく、その時の担任から『場面緘黙』ではないかと言われました。

治会からありました。地域にも顔をあまり出してなかった私でしたが、せっかくの機会だと思い消防団に入団しました。これを機に私は変わったと思います。それまでは、あまり子どもに関わることもなく、ほとんど子育ては妻に任せ、仕事が休みの時は疲れているからと寝てばかりでした。授業参観などもあまり参加もせず、奉仕作業に参加するくらいで、運動会へ行っても誰とも話すことなく、子どもの姿を見ていました。子どもが消極的だったりするのは、自分たちの子だから仕方がない。それが個性だという思いが強かったと思います。

妻と子育ての話をして、父親というのが分からないと言っていました。私の生い立ちのためなのかもしれないと思います。というのは、私が小学四年生の時に母親、そして中学一年生の時に父親がともに病気で他界したのです。祖父母と同居でしたので、両親が他界してからは親代わりとして育てられました。やはり親ではないので、厳しく育てられた訳でもなく内気な性格だったため、何気なく大人になったようなものだと思います。妻は私のことを、世間を知らなすぎると言うのです。

消防団に参加したことによって、いろいろな人と出会い、このままではいけないと思うようになりました。ただ、まだその時はPTAを理解してなくて、妻から話を聞いたりして、行事に参加し

一度だけTVで『場面緘黙』の方の特集を見ました。その方も娘と同じように学校では声を出せなかったようですが、身振りや筆談で先生や友達とコミュニケーションをとっていたそうです。ただ、私の娘は身振りも筆談もできない状態でした。娘が小学校へ入学し、環境の変化に多少の期待をしましたが、やはり幼稚園児の時のまま変わりませんでした。

どうして声が出ないのか？  
一説によりますと、脳の中にヘントウタイという危険に反応するところがあり、危険から身を守るために敏感になっているそうです。

当初、まだ『場面緘黙』という言葉を知らない自分たちを責めました。私たち夫婦は、お互い人見知り自分たちから積極的に話をする人や、人が多い場所も苦手で消極的だったため、子どもに影響してしまっただけではないかと思っていました。

また娘は、予定日過ぎて産まれたにも関わらず、標準よりも小さく産まれ、他の子と身長差が出てきたため、病院の先生と相談し成長ホルモンの注射を投与しています。本人の身長伸びはありますが、小学一年生の平均身長くらいしかありませんので、同じ学年の子と違う自分に自信がもてなく、余計に消極的になってしまっているのも原因の一つではないかと日々感じています。いろいろ悩んでいた頃に、消防団加入の話が自

てみようかなという感じでした。

そんな私が今ではPTA会長になり、今でも緊張が続けていますが、息子や娘に私が頑張っている姿を見せ、ともに成長していると感じています。

次男は今、私の姿を見てくれて、瑞穂市少年少女消防クラブに入り訓練を頑張っています。また、みずほレインボー合唱団に小学二年生から入り、男の子一人で合唱に励んでいます。

そして娘は、まだまだ声を出すことはできませんが、身振りをするようになり、運動会では全くなかった準備体操を動きは小さいですが、手を動かしていました。かけっこも去年は辞退したのですが、今年最後まで走りぬくことができました。とても成長を感じた運動会になりました。

私だけでなく、妻も仕事と子ども会の役員などで忙しい日々を送っていますが、毎年行われるPTAの行事、「えほんの会」という読み聞かせの活動に参加し、『なっちゃんの声』という『場面緘黙』の絵本を子どもたちに聞かせ、娘ばかりではなく、少しでも障がいのある子どもたちのことを理解してもらおうと読んでいます。そうした本を担任の先生にもお願いして、クラスで読んでもらっています。

私たち夫婦ができることは限られています。周りの人たちにも支えられ理解してもらいながら、子どもの成長をゆつくり見守り、ともに成長し続けたいと思います。

## 親子で通った校舎の引越し

高山市立本郷小学校PTA

本郷小学校では今年度、校舎の大規模改修工事を行っております。建設から四十年以上経過し、近年は老朽化も目立っております。

工事は、通常の学校生活を送りながら実施するため、教室の移動を繰り返す作業が必要となりました。そのため五月の参観日に、教室内の机や椅子などの引越し作業を親子で行いました。先生方より作業の手順や何を運ぶかの指示があり、それに従い親子で協力して進めましたが、親にとっても自分達が小学生の時に通った校舎であるため、当時の思い出話を子供達に聞かせたり、その頃から残る掲示物の説明をしたりと、和やかな雰囲気の中での作業でした。また、子どもたちにとっては、これから自分たちの校舎や教室がどんな風になるのか、とても楽しみな様子でした。



親子で行った引越し作業は、親子はもちろん、PTAとしてもつながりを深める良い機会だったと思います。今後も様々な活動を通じて、学校や地域を盛り上げていきたいと思っております。



## 絆と連携の学年PTA活動

高山市立国府小学校PTA

私たちの学校では、学年ごとに特徴的なPTA活動があります。

一年生はミニ運動会、二年生は縄跳び大会など、PTA学級委員が中心となって企画運営を行います。活動の様子を一つご紹介いたします。一年生の親子ミニ運動会が十月十四日(土)に行われました。風船割りなどの種目です。子ども们的感想です。「きょうは、楽しみにしていたおやこんどう会でした。しんぶんジャンケンでいっぱいできてさんねんだったけど、おかあさんにおんぶしてもらえたので、うれしかったです。」



三年生はJ A主催の行事、四年生は国府町の文化祭に参加して合唱を披露し、地域との絆を深めています。五年生は、地域の方から支援していただいている学校田で育てたもち米を使ってもちつきをし、飛騨伝統の花もちづくりを行います。六年生は、六年間の感謝の気持ちを込めて親子で校舎内の清掃と環境整備の作業を行います。



どの活動も保護者の交流や地域の連携の一助になっています。

## 学校・地域・行政一体型の自主防災

高山市立久々野中学校PTA

久々野中学校では、毎年「小中合同地域防災学習」を行っています。「久々野の子どもを育てる会」という学校運営協議会を中心に、地域の消防団員、自主防災隊、町内会役員、久々野支所の職員の皆さんの協力の下、四月より計画・開催しています。

今年度は、久々野支所職員の皆さんのアイデアで、十二地区が様々な取り組みを実施。放水訓練、土嚢作り、応急手当訓練、炊きだし、防災講話とクイズ、非常食試食、新聞紙でスリッパ作り、間仕切りの組み立て…。



加えて消防団員や自主防災隊の皆さんは日頃の経験から、防災に役立つ助言をしてくれました。また、ハザードマップの見直しとともに、地域の危険箇所や独居のお年寄りの家を確認し、自助、共助の防災意識を高める機会となりました。「学校(児童・生徒)が防災意識を高め、地域の力にする」そんな実感の持てる取り組みを今後とも続けていきます。

## 「感謝の心」と「甲斐性」を育む

高山市立荘川中学校PTA

荘川中学校PTAでは、環境整備作業と資源リサイクル活動を、親子で力を合わせて行っています。

荘川は豪雪地帯で、毎年多くの積雪があり、校舎や樹木の雪囲い作業は、この地域に住む上での必要不可欠な仕事です。親子で学校のために協働する活動が、自分たちの暮らしを守るだけでなく、親への感謝の思いをもつ機会ともなっています。また、雪囲いの仕方を親の姿から学ぶことは、将来、荘川で暮らすための「甲斐性」を身に付ける大切な機会となっています。



資源リサイクル活動では、小学生も一緒になって仕事をします。地域ごとで中学生がリーダーとなり、小さい子の面倒を見たり、進んで仕事をしたりする姿を見ることは、たくましくなった我が子の姿を実感できる大切な機会となっています。今後も「感謝」の気持ちを忘れず、「甲斐性」のある子どもに育つよう活動を継続していきたいと思っております。



### 寄生獣

岩明均 著

美濃市立大矢田小学校PTA会長

永井和将



「地球上の誰かが、ふと思った  
「人間の数が半分になったらいく  
つの森が焼かれずにすむだろうか  
」、  
「人間の数が一〇〇分の一  
になったらたれ流される毒も一〇  
〇分の一になるだろうか？」

「生命（みんな）の未来を守らねば！」  
冒頭から始まる、あまりにも印象的なこの言葉から、私はこの作品に引き込まれてしまいました。私が出会ったこの作品は、全一〇巻のマンガです。  
一九八八年に発表され、一九九三年に講談社漫画賞を受賞し、二〇一四年には映画化及びアニメ化された日本中で注目された作品です。

この物語は、突然、謎の寄生生物と共生することになってしまった平凡な高校生「新一」の数奇な運命を中心に描かれています。人間の頭に寄生して人間を食べる『寄生生物』側と、最初は捕食されるが最後まであつたが、後に反撃に転ずる『人間』側、そしてその中間者として存在する『新一とミギー』側という三者の構図で物語は成立しています。しかし、単なる地球外生命体の寄生生物と人間との壮絶なバトルというだけのストーリーではなく、寄生生物と同居してしまった「中間者」という存在の主人公を通して「生きる」という意味を考えようというのがテーマとなっています。  
この物語の中では、人の心の中にある悪意を「寄生生物の残虐性、異常性」、良心を「他の生物に無

い人間独特な行動」として表されています。人は弱い生き物であり、生きていく中で、心が悪意に満たされていくこともあります。しかし、そうならないためにも「他の生物に無い人間独特な行動」をとることで、心の中が良心で満たされ、幸せに生きていけると、この物語は教えてくれていると思います。その「他の生物に無い人間独特な行動」として、物語の中でいくつもちりばめられていた行動は、「涙を流し泣く」、「大声で笑う」、「友達をつくる」、「他人を助ける」などで、これらは確かに人間独特な行動であり、大切にしながら生きていくべきであると再認識させられました。

そして、物語の最後に、こんな言葉がありました。「人間はヒマな動物であり、それこそが最大の取り柄なんだ、心に余裕（ヒマ）がある生物、なんてすばらしい」。この言葉にハッとさせられました。人間は、心に余裕（ヒマ）があるから笑えるし、人のために何かができる。逆に余裕（ヒマ）がなければ、イライラして誰かを傷つけたりしてしまいます。そう、この心の余裕（ヒマ）を持たせることで、心の中が良心で満たされ幸せに生きていくことができる。この言葉にそう教えられました。心に

近年、はじめによる青少年の自殺は度々ニュースで報道され、年頃の子を持つ親は必ず耳を傾けるのではないのでしょうか。なぜ死に追いやられたのか、もう少し早く手を打てなかったのかと誰もが思うのではないのでしょうか。  
大平光代著『だから、あなたも生きぬいて』講談社の作者は、子どもの頃に実際に体験したいじめをありのままの気持ちと葛藤、心の叫びをリアルに表現しています。作者が立ち直るまでの人との出会いや過程を記しており、私は思春期の子どもを育てる親として大きな衝撃を受けました。

はじめは曖昧な理由から始まることも多く、群れて一人に襲いかかる。暴言や態度だけでなく無視

というあらゆる手段で相手を傷つける行為で、群れているからこそ自分が加害者と思わない環境にいるともいえます。誰かに話せばすぐに解決できそうにも思えますが、子どもにとっては深刻であり安易に関わり方を間違えればますますエスカレートする状況にもなりうるのです。子どもはいつもと違う様子で私たちにサインを送り、そのサインに気づくことなく、また先生や友人・親子の信頼関係を築いていなければ解決の糸口は困難を極めるでしょう。  
子どもに起こる問題は人との関係性だったり時間の調整だったり様々な事があります。善悪は小さい頃から誰もが両親や教育を通して教え込まれているにも関わら

ず、世の中には理不尽なことや曖昧なことがいっぱいいて、大人でさえも躊躇する場面が多い中、子どもたちはそれ以上に迷い戸惑うことでしょう。  
人は人との関わりの中で自分の存在を確認し、人を信じることで安心する自分の居場所を見つけていきます。子どもの安心は信じあえる家族や友人であり、居場所は家庭や学校や塾などでしょうか。著書では子どもに起きていることを子どもの視点で捉えなければ子どもは人間不信で心を開かなくなり、そのことがこれからの人生にも大きく影響していくということとを、経験を通して記されています。  
私はこの本を通して、子どもの

余裕（ヒマ）をもって生きよう。そうできるように、生活の中で、できる限りの努力をしたり、工夫をしたりしよう。そして、自分の心に余裕（ヒマ）を持つことで、自分が幸せになり、家族が幸せになり、子供たちも将来幸せに生きていくことができるようになると思います。  
グロテスクな描写や残酷なシーンが多い作品ではありますが、ところどころホッとさせられるシーンもあり、最後には、心が温かくなるだけでなく、少し、心に余裕（ヒマ）を生んでくれるこの作品を、皆さんもぜひ一度読んでみてください。

だから、あなたも生きぬいて

大平光代 著

講談社

羽島市立中央中学校PTA

福田優子



### pleasure イラスト&クイズ



PN. シーフ☆ (高山市)



PN. メタルおーちゃん (揖斐郡)

### QUESTION -3

後ろにさがるほど強いものってなに？



出題・松尾 依奏良 (岐阜市)

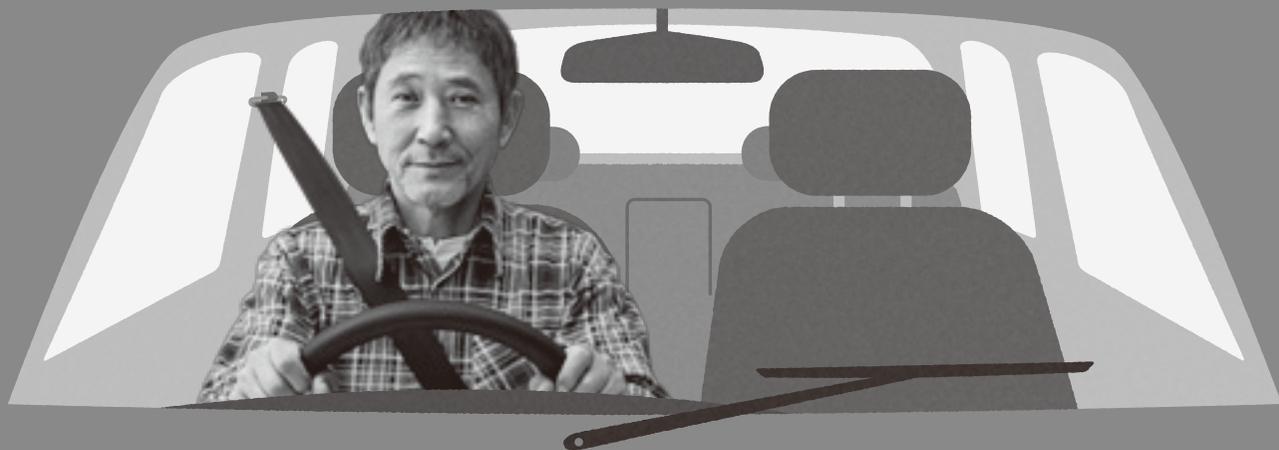
〈答えは41ページ〉

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

# 息子がオレの運転を見守りたいって、どういうこと？



専用の車載器で、運転を見守る。安全を見守る。補償だけでなく、家族がもっと安心できるための新しい自動車保険の登場です。

## 家族をつなぐ6つのサービス



- 1 危険運転時に音声等でアラート  
急加速などの危険運転をした時や、事故多発地点の接近時に専用車載器が音声等で警告をします。
- 2 高速道路逆走の可能性があるときに音声等でアラート  
逆走事故が起きたインターチェンジ等では、逆走の可能性があったときに専用車載器が音声等で警告をします。
- 3 指定区域外を走ると音声等でアラート  
あらかじめ指定しておいた範囲内の地域をあやまって出た場合、専用車載器が音声等で警告をします。
- 4 運転診断結果をレポート  
走行データをもとに分析した運転傾向や各種アラートの通知状況等をレポートします。
- 5 事故発生時の速やかなサポート  
大きな衝撃を検知すると安否確認の電話を行い、事故だった場合には丁寧にサポートします。
- 6 見守る家族にも運転診断結果をレポート  
運転傾向や各種アラートの通知状況等を見守るご家族等にも毎月レポートします。

見守る、はきずな。



# ルールが成長を促す

土岐市立駄知小学校PTA母親委員長 小木曾 和美



我が家は、夫婦と小六の娘の三人家族です。娘の成長と共に我が家のルールも成長しています。基本のルールは「挨拶」と「自分のことは自分で行う」です。「挨拶」は、家族全員が自分から「おはよう」など声をかけることです。娘の「ただいま」などの言葉だけで、その日の体調や機嫌が伝わってきます。その日の家族の会話のきっかけになっています。

「自分のことは自分で行う」は、娘の成長に合わせてステップアップしています。小一では、「上履きを洗うこと」などからスタートしました。小四の時には、ごみの分別を一緒に行うようになりました。小六では、家庭科で学習したことを基に、アイロンがけや食事作りなども自分でできるようになりました。失敗もありますが、それも家族の笑い声の一つとなり、家族団欒の場となっています。

我が家のルールを通して、娘の成長を楽しんでいます。

小木曾家の巻

76



## 話そう!語ろう! わが家の約束



私の娘は、今年、高校受験ですが、昨年までは、好きな時間に使いたいだけスマホを使わせていました。しかし、今年は高校受験ということで、勉強に集中するようにスマホを使うことについて次のような約束を決めました。

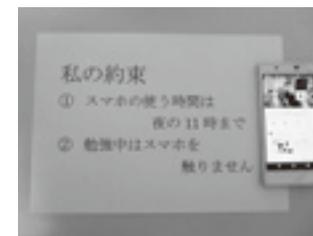
- ① スマホを使う時間は夜十一時までとする。
- ② 勉強中はスマホを触らない。

約束を決める前までは、好きな時間にスマホでYouTubeを見て学校の宿題にとりかからず、また、勉強を始めても、スマホを見ながらとなり、集中して、勉強に取り組むことができていませんでしたが、約束を決めてからは少しずつ自分でスマホを使用する時間を決めて、勉強に集中するようになりました。

スマホを使うことは、便利で楽しいことばかりではないので、今後も使用については、子どもと相談しながら約束を決めて使うようにしていきたいと考えています。

坂東家の巻

77



関ヶ原町立関ヶ原中学校PTA会長 坂東 崇

## スマホの約束

★子の思い

\*\*\*\*\*  
**バロンと私**  
 \*\*\*\*\*

本巣市立彈正小学校

三年 杉山美優

バロンが来たのは、生まれて二か月たった六月の始めです。なぜ、犬をかい始めたかというところ、犬をかつと楽しくなるし、優しい気持ちを持てるようになるからだとお父さんが言っていたからです。バロンの名前は、『ぎぞくの男じゃく』という意味でつけました。

私の役わりは、水かえ、さんぽ、シートの取りかえと遊ぶことです。その中で、とくに大事なのはさんぽです。と中で、おしっこやうんちをちゃんとさせないといけないからです。お世話をしているうちに、バロンも私になつてきてくれ、私もバロンを大事に思う気持ちで、どんどん強くなりました。

時々、兄と口げんかをして、かなしくて泣いていると、いつもバロンが体当たりをしてなくさめてくれます。私を心配してくれるバ

ロンの気持ちが伝わってきて、とてもうれしくなります。

私は、バロンが大好きです。バロンは家族の一員！なくてはならない存在なのです。

\*\*\*\*\*  
**運動会で流した涙**  
 \*\*\*\*\*

御高町立伏見小学校

六年 澤田そよか

私は、今年応援リーダーをやりました。去年もやったけど、今年は去年より辛いと感じた事が、とても多かったです。

練習に取り組む中で私は、自分の声の大きさや動きを、団長になかなか認めてもらえなくて泣いた事もありました。六年生ががんばらないと下級生を引っ張ってはいけないという責任と、応援リーダーとしてのプレッシャーを背負っていました。やめたいと思った日もありました。でも、これまでの先輩方の姿と、自分を応援リーダーに推してくれた仲間たちのことを思い出しながら、もう一度やってみようと思ふようになりました。そして、団長に認めてもらえ

る大きな声を出そうと、必死にがんばりました。

運動会当日。競技を終わって団席にもどってくるみんなに「お疲れコール」を送りました。一日中大きな声で応援をしました。でも、私たちの団は、負けてしまいました。私は涙があふれました。こんな経験は初めてでした。負けてくやしい気持ちと、でもせいっぱいやりきったという気持ちでいっぱいでした。練習で流した涙、本番で流した涙、この二回の涙は、今までの自分を大きく変えたと思っています。

解団式の時、団長は泣いていました。六年生も応援団も、下級生の中にも、泣いている子がいました。みんなの心が一つになって泣けたということは、自分たちがやってきた事がまちがっていなかったということだと私は思っています。辛いこともあったけど、こんなに心が晴れ晴れとして、すっきりした運動会は初めてでした。最後まであきらめないことは、自分自身の何かを変えることができるのだと知ることができました。

今年の運動会は、最高の思い出です。これからも、どんなに高くても大きいかべも、あきらめなければ乗り越えられると信じて、何事にもチャレンジしていきたいと思っています。

\*\*\*\*\*  
**仲間を信じて**  
 \*\*\*\*\*

養老町立東部中学校

三年 大倉梨夏

今年の合唱コンクールのスローガンは、「心に響け」でした。聞いてくださる人全ての心に感動を届けたい。そして、この仲間たちとともに金賞をとりたい。そんな思いで日々練習に取り組みました。

私の学級の合唱曲は、「雲の指標」です。パート練習から始め、各パートが自信をもって歌えるようになるまで練習を繰り返しました。しかし、全体で合わせると、自分の声に自信がなくなり声が小さくなるなど、課題も見つかりました。また、合唱が思ったようにうまくいかないせいか、ふざけてしまう姿もありました。

そこで、私たちがやったことは、

★親の願い

\*\*\*\*\*  
**子どもは力強い！**  
 \*\*\*\*\*

羽島市立福寿小学校PTA

会長 塘本理一郎

子どもを育てる親の立場から、日頃の思いを紹介して…この事で「色んな経験をさせてあげる」事について考えてみます。

聞いたことは忘れ、見たことは覚え、やったことはわかると言います。言って聞かせることも大事ですが、見せたり、経験を積ませる事がより大切だという事を意味しているのです。

わが子に対し家庭では「いつまでたっても成長しないなあ…」と

とここでの変更不安もありました

が、各パートの音量のバランスを整え、音の幅に広がりをもたせ、美しさを引き出すために、この変更にも踏み切りました。私たちがなすべきことできる。今思えば、互いに信頼し合う仲間たちだからこそできたのだと思います。

そして、迎えた合唱コンクール本番。私たちは、三年生の中で一番最後に歌いました。今までに感じたことのない程の緊張感の中でしたが、今までやってきた自分を、そして、共にがんばってきた仲間を信じて、私たちがらしく歌い上げることができました。歌い終わった時、聞いてくださった方の心に響く合唱ができた、達成感と充

実感でいっぱいになりました。

結果発表。胸の鼓動がはつきりと聞えるほど、期待と不安と緊張で静まりかえった会場。「金賞、三年二組」と自分の学級が呼ばれた瞬間のことを、私は一生忘れません。仲間を信じて、今までがんばってきたよかった一本当に感動の瞬間でした。

東部中学校では、このように、仲間を信じて心を合わせて歌う合唱が一つの伝統です。私は、後期、文化委員長を務めています。その伝統をさらに高めていけるよう、学級、学年、そして、全校で、これからも合唱に一生懸命取り組んでいきます。

大垣桜高校  
**まんが研究部**

あいさつ



★  
**逆さ言葉**

いなかいかない

(田舎行かない)

出題・五十川 陽菜 (揖斐郡)

思っていました。私が思っているよりも力強く成長していつているようです。上の子が六年の女の子で、下の子が四年の男の子なのですが、子どもたちについて少し書かせて頂きます。

上の子は歌が好きで合唱をやっています。数年前までは声も出せないしセリフも棒読みでした。それを見て私は理解させようと色々な言い方で試みましたが、私がどれだけ言っても娘が良い顔をすることはなく、もう二度と話をしないと諦めていました。難しい年ごろになるし、思春期が終わるまではこんなもんか…大人になるまでこんなもんかも…。

しかし分かっていないのは私のほうでした。久しぶりに発表会で見た娘は、声もお腹がぐちゃぐちゃでセリフもつまづきまくるようになっていたんです。以前と比べると表情も豊かに表現できるようになっており、度胸もついた感じに見えました。「よく舞台でこんなに堂々できるな」と少し見直してしまいました(素直じゃない私は認めたくないのですが)。

子どもは力強いんですね！

下の子は、スポーツをやっている関係で、体力をつけさせたいと考え、数年前一緒にジョギングを始めました。しかし、すぐに疲れて走れなくなる為、気の短い私は「もう走らなくていい」と言いつつ、やることを止めさせてしまいました。それでも走れるようになりたと言いつつ、仕方なく短い距離から始めて少しずつ距離を伸ばしていき、一緒にやってみました。朝起きて走ることを繰り返して、半年経った頃でしょつか、私より速くなっていました。気が付くと体つきもかわり、少しぽっこりしていたかわいなお腹が割れてきているのです。

親である私が子どもの限界を決めてはいけない。我慢強く経験させなければならぬと考えさせられました。

子どもは力強い！出来るだけ広く、ある程度深く経験させてあげたいと考えていますが、私の思い通りにはいかず、私の思うより力強く成長していきつつあります。

驚きや感動がらっぱのPTA活動

恵那市立山岡中学校PTA

会長 水野廣善

平成二十七年四月に中学校時代の恩師である小坂忠昭先生が、私の母校である山岡中学校の校長として赴任されました。山岡中学校を卒業してから二十五年以上の月日が流れましたが、かつて「鬼の小坂」と恐れられていた先生が、年齢を重ねて「仏の小坂」(本人自稱)となって母校の校長の赴任されたことは、私たちにとって懐かしくもあり喜びでもありました。

そんな中で、私にPTA役員就任の依頼がありました。恩師である校長先生と一緒に山岡中学校PTAの役員として学校へ入りの一翼になりたいの思いから、昨年度はPTA副会長、今年度はPTA会長を務めさせていただきました。

私自身、今までは、仕事等が忙しく中学校の行事に関わる事が少なかったため、PTAのことはほとんど知りませんでした。役員

としてPTA活動に参画をする事に不安もありましたが、校長、教頭をはじめとする先生方、他のPTA役員と協力、連携しながら楽しくPTA活動ができましたし、さまざまな行事も開催することができました。PTA活動を通して、私は貴重な体験をし、財産を得ることもできました。また、学校行事に参加する機会が増えたことで、生徒達が学校行事やボランティアなどに真剣に取り組んでいる姿を目の当たりにし、大変感動することもできました。

そして、私にとって一番の出来事は、私の息子が今年度の前期の生徒会長に選出されたことです。「親が頑張っていればその姿を見て、子どもも頑張る。」これは小坂校長がよく言われる印象的な言葉です。PTA役員として頑張る私の姿を見て、息子が生徒会長を頑張ってくれたのであれば嬉しいかぎりです。これからも親として子どもたちの手本になるように頑張っていきたいと思います。

生徒数も減少する中で、PTA活動の役割は今後も重要になるこ

教育の窓

日本語のよき、再発見

関市立洞戸小学校

教諭 石井美紀

私は今年四月に洞戸小学校に赴任しました。全校児童七十名余りの小さな学校です。

始業式も入学式もこじんまりとしており、学校全体に和気あたたかとした雰囲気があります。子ども達は、学習に前向きで素直な子が多いです。「とてもいい学校だなあ。」と思うと共に、私が一番驚いたのは自然に敬語が使える子ども達が他校に比べて多いという点でした。

最近テレビをつけると、ため口で話す芸能人が大勢いるようになりまして。英語学習の影響もあってか「親しみやすい」「話しやすい」という理由から、地域の方や先生など目上の人に対してため口で話す子が一般的に増えてきているように感じます。しかし、

親しみが甘えになり、甘えがわがままになり、教育活動を行う中で、「そんなのやりたくない。」と言った活動や学習ができないお子さんをよく見るようになりました。子どもたちが敬語を使う良さは、大きく二つあると思います。

一つ目は、敬語に慣れることで、社会に出て敬語に対する苦手意識をもつことなく、自然に「ミニ

ニケーションツールとして使えるようになることです。

二つ目は、敬語によって社会性が身に付くということです。敬語は尊敬の念を表した言葉です。敬語を話すことによって子ども達は「友達とは違う対象」として先生を認識するようになり、その言葉に見合った行動をとるようになります。敬語は「公的な場と私的な場」を使い分け、「自立」を促すツールとなるのです。

まだまだ未発達で、これから価値観を形成していかなければいけない子ども達は、生活環境や言語環境によって行動が大きく左右されます。洞戸の子も達、どんなことにも前向きに挑戦しようと

大垣桜高校 まんが研究部

雪の日の朝…?



逆さ言葉

しなもんぱんも  
れもんぱんもなし

(シナモンパンもレモンパンも無し)

出題・松尾 依奏良 (岐阜市)

することが多いのは、「敬語」によって「公的な場と私的な場」をうまく使い分け、学校ではどんな姿で取り組めばいいのかが分かり、子どもなりの社会性が身に付いているということも大きな要因の一つだと思います。

家庭も学校も日本語特有の「敬語」のよさを今一度、見つめ直す時なのではないでしょうか。私は、素直で前向きな子ども達からこんなことを学びました。

\*\*\*\*\*  
**学校図書館と家庭での読書**  
 \*\*\*\*\*

高山市立北稜中学校

教諭 新谷泰浩

「学校でいちばんお金のかかっている部屋はどこでしょうか。」  
 四月、図書館オリエンテーション。私はこの場で必ず同じことを子ども達に問いかけます。

答えは図書館です。本校の場合、本の値段が一冊二、〇〇〇円だとしてもそれが八、〇〇〇冊以上あるので、最低でも一、六〇〇万円はかかっていることになりす。実際には、高価な本や値段のつけ

れない貴重な資料もありますので、学校図書館の金銭的な価値は学校内で最も高いものになります。

「では、作るのに最も時間のかかった部屋はどこでしょうか。」とも問うてみます。子どもたちは悩みます。そこで、こうヒントを出します。

「あなたが、原稿用紙数枚の夏休みの読書感想文を書くのにかかる時間はどのくらいですか。」  
 ここまで言うと、たいていは気づいてくれます。

「先生、図書館ですね。だって、一冊の本を作るのにものすごく時間がかかっているから。」  
 一冊二、〇〇〇円で購入できる本だとしても、そこにはたくさん人の知恵や研究があり、それぞれの人の半生に相当するような時間がかかっています。そう考えると、一つの学校の図書館に詰まっているものはとても計算できるものではありません。

学校の中の一つの部屋に過ぎない図書館ですが、ここはまさに宝箱なのです。  
 ではなぜ学校で図書館は大事に

されるのでしょうか。一つには法律の後ろ盾があるからかもしれません。「子ども読書活動の推進に関する法律」には、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの（以下略）」と書かれています。その大事な読書活動を学校の中で支えるのが、学校図書館なのです。

ところが、本校のような小規模校なら、全校で図書館を使うこともできませんが、何百人も在籍している大規模校では、昼休みに全校が図書館に押し寄せたりこんでもないことになってしまっています。

そこで、大事になるのが「家庭での読書」です。

すでに本が好きになっている子は、自分でどんどん新しい本を開拓していきます。しかし、さほど本が好きではない子の場合には、「今がチャンス」と思ったときのブックが大事です。「面白そうな本だね。読んだら、話を聞かせてね。」と、いかにも楽しそうに、期

待をぶつけてみてはどうでしょうか。「だからのため」が、いつの間にか「自分のため」になっていくのです。

子どもがたまたま手にした一冊が、忘れられない一冊になるかもしれませぬ。

本がさほど好きではなかった私の忘れられない一冊は、武井博さんの「コン八ぎつねの大脱走」という本です。隣家の友達のために読んだ本でした。



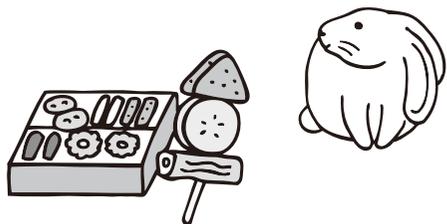
1月号の

# 親子ではてな



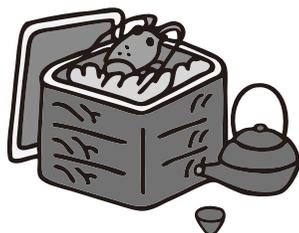
**Q2** 次の4つの中で、冬の季語でないものはどれでしょう。

- ア 雪柳(ゆきやなぎ)
- イ 春隣(はるどなり)
- ウ うさぎ
- エ おでん



**Q1** おせち料理の定番の具材にはそれぞれ意味があります。次の4つの中で意味が違うのはどれでしょう。

- ア かまぼこ…めでたい
- イ 栗きんとん…健康
- ウ れんこん…将来有望
- エ 黒豆…魔よけ



応募方法

応募者は、はがきで、1月末までに下記宛先へお送りください。  
 (1人1枚・当日消印有効)  
 ※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824  
 岐阜市北八ツ寺町7  
 岐阜県校長会館内  
 岐阜県PTA事務局  
 「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 1月号クイズの答え
- 郵便番号・住所  
学校・学年・氏名  
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

11月号クイズ答え

- Q1 (ア)
- Q2 (4)

11月号のクイズ当選者

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 松尾依奏良 (岐阜市) | 池田 涼菜 (大垣市)   |
| 赤堀 怜希 (岐阜市) | 勝 有萌果 (不破郡)   |
| 伊藤 慎介 (山県市) | 五十川陽菜 (揖斐郡)   |
| 木戸農太郎 (羽島市) | 三宅 晴 (美濃加茂市)  |
| 堀 希実 (羽島郡)  | 長瀬 良磨 (美濃加茂市) |
| 山下琥太郎 (大垣市) | 牧野うらら (中津川市)  |

お試し  
クッキング

# 小松菜の煮びたし



岐阜県学校栄養士会

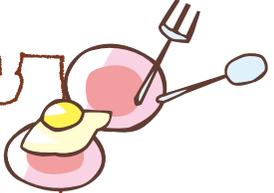
小松菜は、岐阜県で栽培が盛んな野菜の一つです。主に岐阜市や神戸町を中心に栽培されており、大阪や名古屋、北陸などの市場にも出荷されています。ハウスを使った周年栽培が行われているため、1年中手に入りますが、1～3月に旬を迎える野菜です。小松菜は、ほうれん草と違ってあくがなく、味にくせがないので、おひたし、和え物、汁の実、炒め物と広く用いられます。今回は、小松菜に白菜を加えた煮びたしを紹介します。白菜から水分がたくさん出るので、水を入れずに作ります。野菜がたくさん食べられ、児童にも大人気の献立です。ツナの代わりに鮭の水煮や豚肉などを入れてもおいしく食べられます。手軽に作る事ができるので、野菜が不足しやすい朝食にもおすすめです。

### 作り方

- 小松菜と白菜を1cm幅に切る。えのきたけは、食べやすい長さに切る。
- 鍋に小松菜、白菜、えのきたけ、ツナの順に入れ、上からAの調味料をかける。
- 鍋にふたをして、中火にかけ沸騰したら弱火にして5分ほど煮る。
- 野菜が煮えたら花かつおをふり、軽く混ぜる。

### 材料 4人分

小松菜……………2/3袋(80g)  
白菜……………約5枚(200g)  
えのきたけ……………40g  
ツナ……………60g  
A 濃口しょうゆ……………小さじ2  
砂糖……………小さじ1  
花かつお……………4g




### ●栄養価(1人あたり)

エネルギー……………	36kcal
たんぱく質……………	5.4g
脂質……………	0.2g
カルシウム……………	57mg
鉄……………	1.2mg
亜鉛……………	0.3mg
ビタミンA……………	56μgRE
ビタミンB <sub>1</sub> ……………	0.07mg
ビタミンB <sub>2</sub> ……………	0.08mg
ビタミンC……………	18mg
食物繊維……………	1.5g
塩分相当量……………	0.6g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともに送り返して下さい。

宛先はいずれも 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7  
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。 採用の分にはお礼をさしあげます。

### ■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて予約購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

### ■11月号を読んで

#### 「わが家の宝物」

娘さんの今・昔の写真を見て、わが子と重なりました。年は3つ違いですが、娘2人でわが家も大きくなったなあと、改めて思いました。 Iさん

#### 「学校の宝物」

中学校は1校だけでしたが、日新中学校は合唱がすごい所なのです。毎日の練習が効いているのかなあと思いました。どこ小学校中学校も、子どもの通っている中学校も同じことをやっているの、他の行事も入れてほしいです。 Iさん

#### 「私の先生」

戸村校長先生のページ、熱いものがこみあげてきました。現代は分からない事を質問すると、「そんな事もわかんのか!」とクラスで笑いにされるさみしい時代です。はずかしくて質問が出来ません。このゆがんだ社会をどうしたら軌道修正できるか…考えていますが答えが見つかりません。 Hさん

#### 「クイズの答え」

娘と一緒に、私が高校の時に使っていた国語辞書で調べました。わからない言葉は辞書で調べる(良い?)くせがついています。結局、答えが見つからず、PCで答えを見つけました。辞書には文化の日の詳細が載っていませんでした。ちなみに11月3日は文化の日ですが、私の誕生日でもあります。 Hさん

### ■編集後記

明けましておめでとうございます。年が新たになり、今年はこんなことをしたい、こんな年になるといいな…など夢や希望に満ちている子どもたちがたくさんいます。子どもたちといっしょに、家族や地域皆でその実現に向かって汗をかきましょう。

一方、夢や希望が描けない環境にあつて、辛い時を過ごさざるを得ない子どもたちがいます。その子どもたちの周りにも必ず大人がいます。手を携えて子どもの笑顔のために、家庭や地域の大人が勇気を出して声をかけ合ひましょう。

年度末・年度始めにPTA役員の改選が行われます。どの学校でも話し合いがもたれ、一定のルールに沿って進められていますが、仕事や子育て、地域の役割や家事など様々な事情から、PTA活動への参加を含めて難しくなっていると感じます。PTAは子どもを守り育て、保護者も学び育つための活動が行われます。特集「PTA役員の選び方」が参考になれば幸いです。掲載できなかったいくつかの事例は、3月号以降に掲載します。

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。



### ■なぞなぞの答え

- ①せつけん ②ハイキング
- ③綱引き

### ■平成30年3月号のお知らせ(予告)

特集=被災地に学ぶ/表紙=境川中/学校のたからもの=富岡小・牧田小・神岡小桜ヶ丘中/わが家の宝物=三輪南小/家庭教育応援団/PTAのABC⑤/保健室ノート=泉中/私の先生=安桜小/半生記=瀬尻小/一冊の本=加茂野小・高富中/わが家の約束=川辺東小・釜戸中/ボランティアニュース=外山小・弾正小・一色小・糸貫中/子の思い=今尾小・生津小・瑞浪中/親の願い=茜部小・鶴沼中/教育の窓=大和西小・揖東中/お試しクッキング/ふるさとの伝承=花里小/きらりキッズ!=南平野小/我が部活=下呂中/私たちのPTA=山之上小

## わが子のあゆみ

平成30年1月1日発行  
初春号 第69巻4号  
通巻第451号

頒価 200円(年間1,000円)

\*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部  
発行/岐阜県PTA連合会  
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内  
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259  
ホームページ/http://www.g-pta.com  
Eメール/info@g-pta.com  
印刷/サンメッセ株式会社

イワザクラの大切さを伝え残して

毎年、この学校の新年度のスタートを「うすべに色」に彩ってくれるイワザクラ。学校の名前の由来ともなり、校歌の「節」うすべに色に咲く花」でもあるこの植物は、岐阜県を分布の東限とする西日本でも極めて限られたところに自生します。その希少性から、自生地の一つである舟伏山が所在する旧美山町では、町の花として長年にわたって愛されてきました。

かつては舟伏山の石灰岩の山肌に数多く群生していたようですが、山野草ブームによる乱獲の影響などから年々数が減少し、現在では環境省や県によって絶滅危惧の恐れがある種として指定されています。また、山県市では「イワザクラ保護条例」を制定し、保護も行っています。条例の制定は、種の保存にとってよるこぼしいことではありませんが、行政が条例などによって保護しなければならぬほどの危機がこの植物に迫っているということでもあります。

本校では、平成十三年度の開校以来、このイワザクラの栽培・保護を子どもたちの手で継続して行っています。地元講師の江崎淳さんにご指導をいただき、四年生はイワザクラの種まきを、五年生は苗の植え替えを、そして六年生は学校で育て成長した苗を舟伏山のふもとへ移植します。「種まき・植え替え・移植」の三年に及ぶこのサイクルは、十六年にわたり脈々と本校に受け継がれ今日に至っているのです。まさに、本校ならではの伝統です。

十月に種まきをしたイワザクラは、翌年の春には石灰岩の礫の間から小さな芽を吹きます。二年後の秋には直径二cmほどの円形の葉を茂らせ、繊細な根を傷めないように丁寧に植え替えをします。さらに一年後の秋には、葉が直径三、四cmに育ち、根元にはごく小さなつぼみをつけ始めます。それを舟伏山のふもとに分け入って移植します。もちろん、種まきから移植するまでの間、毎日欠かさず水やりなどの世話を続けます。

以下は、昨年度の卒業生が六年生の時に記した作文の一部です。「今回のこの活動は、イワザクラの大切さを伝え残していく六年生としての使命だと感じま

した。これからも全校のみなさんには、いわ桜小学校の一人として、この活動に誇りを持って取り組んでほしいと思います」。

六年生全員のイワザクラに対する思いを綴った作文は、全校児童へ向けて、本人の朗読で発信されます。活動に直接参加しない低学年にも、この伝統が間違いなく受け継がれているのです。そして、校名とともにこの植物の名前は、彼らの記憶に生き続けることでしょう。



▲6年生によるイワザクラの移植



▲美山の花 イワザクラ



▲5年生でのイワザクラの植え替え



▲移植地に立つお願い看板



▲舟伏山のイワザクラ自生地



▲4年生でのイワザクラの種まき

# きらり! キッズ!

多治見市立南姫小学校は、全校児童一八七名の学校です。多治見市の北西端に位置し、隣の可児市とは複雑な境界線ですがつながっています。可児市との境にある歩道橋では、校区の一番北から登校する児童と可児市の小学校に通う児童がすれ違うという珍しい場面が見られます。本校は昨年、創立五十周年を迎えました。創立以来、地域の方々によって支えられてきた学校です。テーマを「地域とともに」これまでも、これからも」とし、地域の皆さんと一緒に、お祝いをしました。学校の教育活動においても地域の自然に触れたり、地域の方々の協力を得たりしながら、様々な活動に取り組んでいます。その活動の一部を紹介します。

## 自然の中へ飛び出そう「ネイチャーゲーム」

学校周辺の秋の自然に触れながら、縦割りグループで活動する「ネイチャーゲーム」は南姫小学校伝統の児童会行事です。グループ毎で、四つのチェックポイントを回ってチャレンジしたり、十六個のプレゼント問題を協力して解いたりします。道ばたの植物を使って遊んだり作品を作ったりして楽しみながらポイントを集めていきます。

《チェックポイント問題例》

「2種類のドングリを缶に投げ入れよう。」

「秋の歌『どんぐりコロコロ』の一番を大きな声で歌おう。」

《プレゼント問題例》

「絵皿に木の葉木の実や草を使って顔をつくり一年生にプレゼント!」

「くっつき虫を三種類体にくっつけてきいジャン先生に見せよう!」

自然に触れながらチャレンジして回る中で、仲間と協力する姿や頑張る姿、優しい姿や笑顔がいっぱい生まれます。

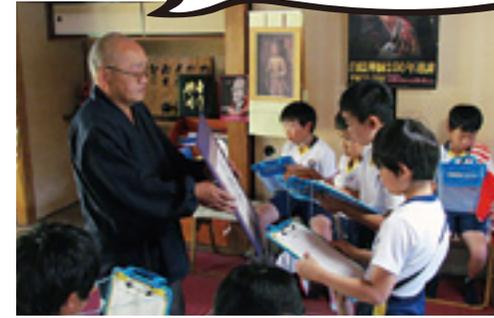
## 地域で学ぼう・地域を学ぼう「姫の時間」

総合的な学習の時間「姫の時間」では、町探検、稲作体験、姫川探検、福祉施設訪問と福祉交流、姫の歴史探検などを行っています。

これらの活動を通して、ふるさと姫への理解を深め、地域に愛着をもち、大切にしていこうとする気持ちを育てています。

**4年生「稲刈り」**  
6月に植えた苗が立派に育ち、10月、田んぼは黄金色のじゅうたんのよう。地域のコメ作り名人に鎌の使い方を教わりながら初めて稲刈りに挑戦する子どもたち。

**3年生「町探検」**  
和尚さんから「この東明寺はもともと姫小の運動場の位置に建っていたんだよ。」という話を聞いてびっくりする子どもたち。



**4年生「姫川たんけん」**  
いつも見ている姫川なのに、知らないことがいっぱい。川の中に入って探検したことで、川の生物や植物への関心がどんどん深まっていく子どもたち。



**5年生「陶技学園との交流」**  
施設の利用者さんに楽しんでもらえるようなゲームを一生懸命考えて当日を迎えます。ルールを説明したあとは、利用者さんと一緒に楽しく遊ぶ子どもたち。

**<稲刈り> 4年生の感想**

- \*やる前は手を切るかもしれないと思ったけど、やってみるととても楽しかったです。餅つきもがんばります。
- \*稲を刈るとき、力があるので頑張りました。縛るときもねじるのをゆるめてしまいそうになるので気を付けてやりました。思ったより大変でした。

**<姫の歴史探検> 6年生の感想**

- \*小池家継が根本や大針の田んぼなどをうばったために今城がつぶれてしまったことや、小牧・長久手の戦いに行くときに、この今城で休んでいたことがわかりました。
- \*三宮神社では、比売神(姫)と天若日子神(父)は神社にいるけど、母の銅像が盗まれたと聞いてびっくりしたし、母が無事だといいなと思いました。
- \*将監さんは、山が崩れないように工夫したりため池を作ったりしてこの町を守っていたなんてすごいと思いました。木曾川、揖斐川、長良川の境の堤防を作る総監督を務めた人が姫にいたなんて誇りに思いました。



**6年生「姫の歴史探検」**  
学校の運動場で史跡の位置確認をした後、陶技学園のバスに乗って、今城址→三宮神社→岡田将監屋敷跡を回ります。写真は、今城址で陶技学園理事長の宮嶋さんの説明に耳を傾けながら歴史に思いをはせる子どもたち。



見つけた葉っぱや木の実を紙皿にくっつけて顔が描けたら出来上がり。首飾りにして1年生にプレゼント。

南姫小のシンボルツリー 秋の「メタセコイヤ」



きいジャン先生(黄色いジャンパーを着ている先生)に問題の答えを確かめてもらっているグループ。答えはあっていたかな?



チェックポイント「秋の歌『どんぐりコロコロ』を大きな声で歌おう」にチャレンジしている子どもたち。

## 野球部



### 一球入魂・凡事徹底

私たち野球部は、「一球入魂・凡事徹底」というスローガンを掲げています。選手層は厚くありませんが一人ひとりがチームの一員という自覚をもっています。例を挙げると多くの人が練習15分から30分も前に集合し、予定よりも早く練習を始めています。部活後もそれぞれの自主練習が始まり、レギュラーの選手ほど長く行っています。他にもグローブの手入れチェックを行い、道具を大切にしています。今後もスローガンを達成できるように頑張っていきます。

## 男子テニス部



### 一球入魂

僕たち男子ソフトテニス部は、来年の中体連の団体で県大会出場を目指し、日々練習に取り組んでいます。僕たちの練習時間は少なく限られています。だから、一球一球考えて打つことを心がけています。ボールを打つときにただ打つのではなく、コースを考えて打ったり、ボールを深く打つことを考えたりしています。これから一回一回の練習を大切に、県大会出場を目指して頑張っていきます。

## 女子バスケットボール部



### チームで“勝つ”

私たち女子バスケットボール部は全員で12人です。少ない人数ですが「市郡大会1勝」という目標に向かって日々、練習をしています。

練習では、「声を出す」「全力で走る」「お互いに励まし合う」ことを大切にしています。仲間が最後まで走りきろうとする姿に対して声をかけたり、2年生が1年生にアドバイスをしたりして、お互いにレベルアップできるようにしています。

チームで「勝つ」ということにこだわり、最後まで走りきれるチームを目指しています。

## サッカー部



### 目標を大切に部活

僕たちサッカー部は、2年生が2人、1年生が11人で活動しています。目標は県大会に出場することです。2年生は人数が少なく、1年生は初心者の方が多くまだまだ未熟ですが、日々の練習で少しずつサッカーの技術やチームの団結力を高め合っています。また、練習だけを頑張るのではなく、それ以前に時間意識なども大切にしています。僕たちは、いつもお世話になっている保護者の方、顧問の先生方に感謝の気持ちが伝わるよう、試合中のプレーを大切にしています。

## 女子バレーボール部



### 中体連市郡大会3位

女子バレーボール部は「中体連市郡大会3位」という目標を掲げ、2年生6人、1年生5人の計11人で活動しています。私たちが練習で大切にしていることは、声出しです。試合で100%の声が出せるよう、日々の練習から大きめにやることを頑張っています。まだまだ成長過程の私たちですが、みんなで力を合わせ、さらなる向上ができるように頑張っていきます。

## 卓球部



### 団体 男子:地区優勝 女子:県大会出場

卓球部は、2年生7人、1年生15人の計22人で活動しています。男女一緒に練習しており、教え合ったり励まし合ったりして切磋琢磨しながら取り組んでいます。普段の基礎練習を大切に、試合で生かすことができるように、個人で目標をもって声を出し、高め合っています。

## 美術部



### 教えあい助け合いながら成長していく部活

私たち美術部は、教え合いながら絵を向上させることを大切にしています。

前期は可児郡美術展出品に向けて動物画を制作しました。3年生は卒業制作として部活動壮行会の応援団幕を描きました。2学期は、2年生が中心となり、自分たちで考え取り組める部活にしていきたいと思っています。1、2年生が協力し合い助け合いながら高めていける美術部にしていきます。

## 男子バスケットボール部



### 地区大会出場

僕たち男子バスケットボール部は2年生11人、1年生9人の合計20人で「地区大会出場」を目標に練習をしています。目標を達成するために大切にしていることは、「最後まであきらめず走りきること」「攻めるディフェンスをすること」です。引いて守るのではなく、強気でボールを奪いにいくことを心がけています。また、態度面でも審判や相手チームに敬意を払い、マナーを守って行動しています。大会でよい結果を出せるように日々の練習を全員で頑張っています。

## 女子テニス部



### 団体戦 県大会出場

私たち女子テニス部は1年生8人、2年生9人の合計17人で活動しています。「団体戦で県大会出場」を目標に、日々努力しています。練習では、声をだし、きびきび動くことを大切にしています。ペアで声をかけ合いながら、技術が向上できるよう頑張っています。球拾いなどできびきびと行い、1球でも多く練習できるようにもしています。短い時間も大切に練習しています。

## 音楽部



### “奏”手本となる音楽部

私たち音楽部50名は、向陽中の手本となる音楽部を目標に活動しています。部活動だけではなく、日常生活から手本となる姿を目指しています。部活動では、「仲間の問題は自分の問題」という考えのもと、50名が一丸となり、仲間を思い、支え合い音楽を創りあげています。温かい雰囲気の中、みんなが自分の居場所をもっています。そんな音楽部の魅力は、聴いてくださっている方々の心にまっすぐ思いを伝える音楽です。これからも、手本となり、向陽中学校らしい音楽を仲間と共に創りあげていきます。

## ソフトボール部



### 日々の活動にそれぞれが目標をもって取り組む

私たちソフトボール部は、2年生3人、1年生3人で活動しています。中体連の大会には昨年度は出場することができず、今年度も参加することが難しくなっています。また、新しい部員が今後入ってくることもありません。しかし、私たちは、ソフトボールが好きで6人の仲間と最後まで一生懸命練習に取り組んでいます。大会に向けての目標はありませんが、部員一人ひとりがそれぞれの目標をもって、技術の向上を目指すとともに、仲間との絆を大切にしていきます。

## 陸上部・駅伝部



### 感謝を走りに

陸上部、駅伝部は正式な部ではなく、活動の時間も限られています。そんな環境の中でも多くの人が参加し、大会が近くなった時期に一生懸命に練習に取り組んでいます。練習メニューを考えてくださったり、グラウンドを整備して下さったりと、わずかな練習時間の中で効率よく練習を行えるように支えてくださる先生方への感謝の気持ちを忘れず、これからも練習に取り組んでいきたいと思っています。今年は昨年よりも良い成績が残せるようにがんばります。

# 私たちのPTA

岐阜市立厚見中学校PTA

PTAスローガン

感謝と思いやりの心を育み  
家庭・学校・地域の絆を深め  
共に成長！

## 学校紹介

岐阜市立厚見中学校の北側には東西に旧中山道が通り、古い街並みが続いています。たいへん落ち着いた雰囲気地域のの中に中学校はあります。生徒数は二八四名です。「授業・掃除・温言」の三つを柱とし、日常を大切に生じた生徒会活動が行われています。

厚見中学校校舎

## PTA活動について

厚見中学校のPTA執行部は、本部役員と会計監査、各種専門委員長で構成され、タームごと(本校は二年間の教育活動を八タームに区切っている)に執行委員会を開き、各係の活動報告や必要事項の検討をしています。また、本部役員がそれぞれの専門員会を担当することで、各種の行事や活動をしっかりと運営できる組織になっています。

PTA総会前には『制服リサイクル』を実施します。これは、卒業生などから寄付された制服を会計監査の

## 各学年委員会

一年生は『いどばた交流会』、二年生は『何でも話そう会』を企画し、先生方も交えた保護者同士の肩の凝らない交流の機会を設けています。また、三年生は『高校見学会』を企画。保護者の意見を基に毎年異なる三校を選び、見学会を実施しています。ここには他学年の保護者の方も参加することができ、和気藹々とした雰囲気行事になっています。

## 成人教育委員会

主に「家庭教育学級」の企画・運営を担当しています。第一回目の家庭教育学級は、学校にある「アゴラ(議論するための部屋)」を活用し、

校長先生の講話「わが子のいいところ、見つけた」とワークショップ、養護教諭の先生による「早寝・早起き・朝ごはん」講話を実施し、参加者が楽しく主体的に考え、活動できるような工夫をしています。  
また、地域の青少年育成市民会議からの要望で、学校内だけでなく、地域との交流行事も大切にしています。

## 広報委員会

学校にある「柏の木」に因んで、広報誌の名称を『かしわざ』とし、年三回発行しています。厚見中の生徒は、地域で開かれる夏祭り、市民運動会、敬老会、文化祭、防災訓練等、多くの行事にボランティアとして参加しています。広報委員は校内行事だけでなく、こうした地域行事にも取材に向かいます。学校生活では見られない生徒たちの一面を知ることができるので、みんなが広報誌の発行を楽しみにしています。

## 地域生活委員会

年三回の資源分別回収の段取り、通学路点検や下校指導、校区外での大きな祭りの祭礼補導活動



家庭教育学級



家庭教育学級 校長先生の講話



厚見文化祭へのボランティアの参加

厚見校区は一小一中なので、日頃から小中の連携を取っていることは言うまでもありません。それに加えて地域の青少年育成市民会議や公民館運営委員会と小中PTAが十分に連携を取り協力関係を深め、コミュニケーション『厚見学園』として一体となってこれからも児童生徒を、温かく見守り、その成長を支えていきたいと思えます。

など、生徒たちの安心・安全を守るために、大きな役割を担ってもらっています。執行委員会(PTA役員全員)としても、地域の青色パトロール車に乗って校区内を回ったり、花火大会の時には夜間パトロールを実施したりして、安心・安全な校区にするための活動を一緒に頑張っています。



防災訓練へのボランティアの参加



地域分別回収



厚見中PTA広報かしわざ



いどばた交流会